



○○○○○○○○○○(新「道の駅」かんおんじ(仮称))

基本構想 (素案)

※名称検討中



令和5年 月



ごあいさつ



令和5年 月

市長署名

目次

新「道の駅」に向けた検討の流れ	1
第1章 上位及び関連計画	2
第2章 観音寺市の現状と課題	4
1 社会動向	4
2 位置・地勢	6
3 人口	8
4 産業	9
1) 農業	9
2) 畜産業	11
3) 漁業	11
4) 工業	12
5) 商業	14
6) 観光	15
7) 地域経済循環構造	22
5 市民から見る観音寺市の特徴	23
1) 市民ニーズ(アンケート調査結果抜粋)	23
6 新「道の駅」への期待と既存道の駅の現状	25
1) 新「道の駅」に対する市民ニーズ(アンケート調査結果抜粋)	25
2) 既存道の駅の現状について	26
7 「道の駅」の必要性	28
第3章 基本理念・基本目標の設定	32
1 新「道の駅」の基本理念	32

2 4つの基本目標	34
1) 観音寺市の課題と道の駅の基本目標	34
第4章 導入機能の整理	36
1 導入機能施設展開イメージ	36
2 必要最大敷地面積の予測	38
第5章 建設候補地の選定	39
第6章 整備・管理運営の整理	40
1 「道の駅」の整備方法	42
2 「道の駅」の整備の事業スキーム	42
第7章 事業費・財源	44
第8章 想定建設スケジュール(案)	45
(資料編)	

新「道の駅」に向けた検討の流れ

本基本構想は、新「道の駅」を整備に向けて、その必要性や施設の基本的な考え方、建設候補地や今後の実現に向けた流れを検討するものです。今後、基本計画、基本設計など、検討の熟度を高めながら、施設の実現に向けて検討を進めていきます。

今後、基本計画の策定段階といった要所要所において、市民アンケート、観音寺市新道の駅市民検討委員会作業部会(仮称)や民間事業者等によるワークショップの実施など、市民の皆様のご意見もいただきながら、施設の実現に向けて検討を進めていきます。

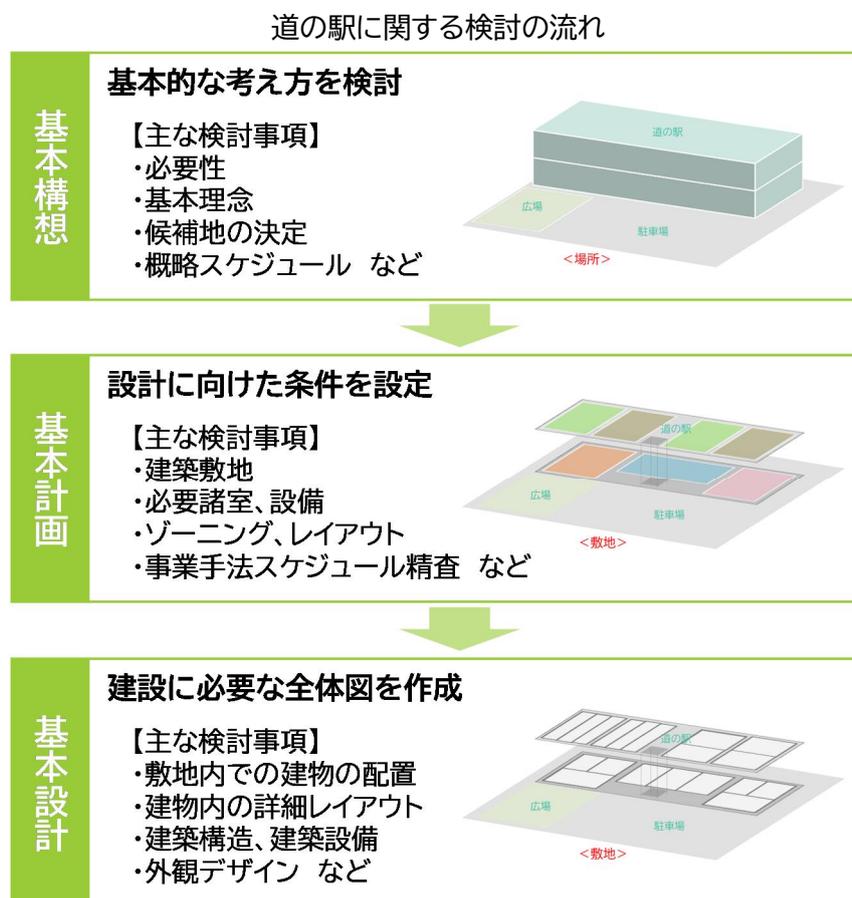


図1

※この後に詳細設計や施工などが続き、開業に向けて取組を進めます

第1章 上位及び関連計画

本市の最上位計画である「第2次観音寺市総合振興計画後期基本計画」において、「にぎわい」プロジェクトとして、産業の活性化による地域のにぎわいづくりのために、新たな道の駅の整備による商業空間のにぎわいづくりや販売力の強化を掲げています。

今後は、新たな道の駅を拠点として、「基本目標」のうち「**活力と魅力ある産業のまち**」や「**新たな交流を生むまち**」を推進するため、地域経済の活性化や交流人口・関係人口の拡大を図り、魅力あるまちづくりを目指していきます。

上位・関連計画における位置づけ

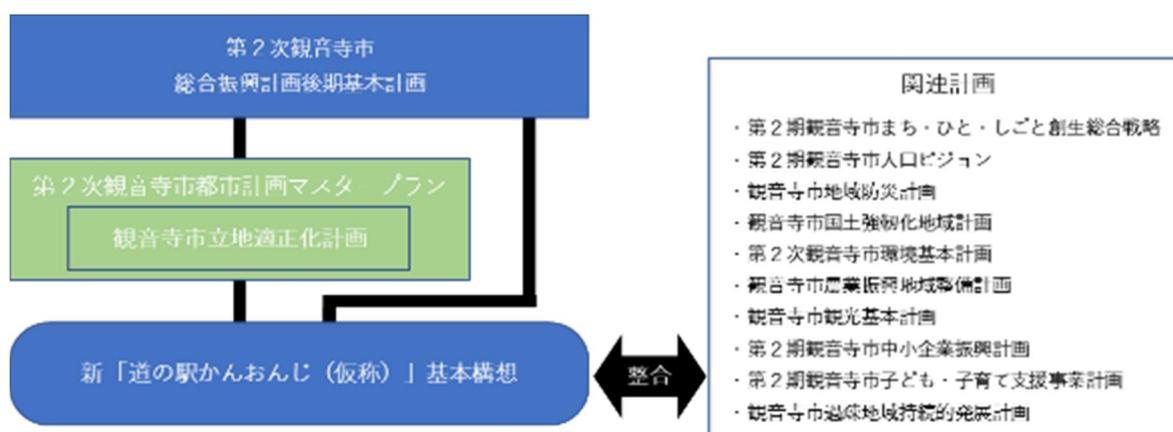


図 1-1

第2次観音寺市総合振興計画後期基本計画(抜粋)

基本目標 活力と魅力ある産業のまち

【基本目標の実現に向けた重点的な取組内容】

○産業競争力の強化

観音寺ブランドをはじめとした地域製品のPR、高付加価値化や販路拡大のための支援を行います。また従来の流通経路に加え、新たな道の駅を拠点とする売り場の提供、インターネットなどを活用した販路の拡大や販売力強化に向けた体制づくりを支援するとともに、本市のプロモーション活動を通して新たな販路の構築や販売の促進を図ります。

○商業の振興

独自のイベントの開催やアニメ作品との連携事業など、楽しさと個性ある商業空間づくりを推進するとともに、空き店舗や遊休施設を活用する等、集客に向けた商業活動を積極的に支援します。また、交流人口の増加による商業の活性化を目指し、新たに整備する道の駅を基点として、市内全域及び周辺地域の回遊性の向上を図ります。

基本目標 新たな交流を生むまち

【基本目標の実現に向けた重点的な取組内容】

○観光拠点の整備と新たな観光ルートの開発

四国全域のゲートウェイとしての役割を担う、新たな道の駅の整備を進めるとともに、主要な観光拠点について、アクセスの向上や関係施設の維持及び改修並びに周辺環境整備などに努めます。

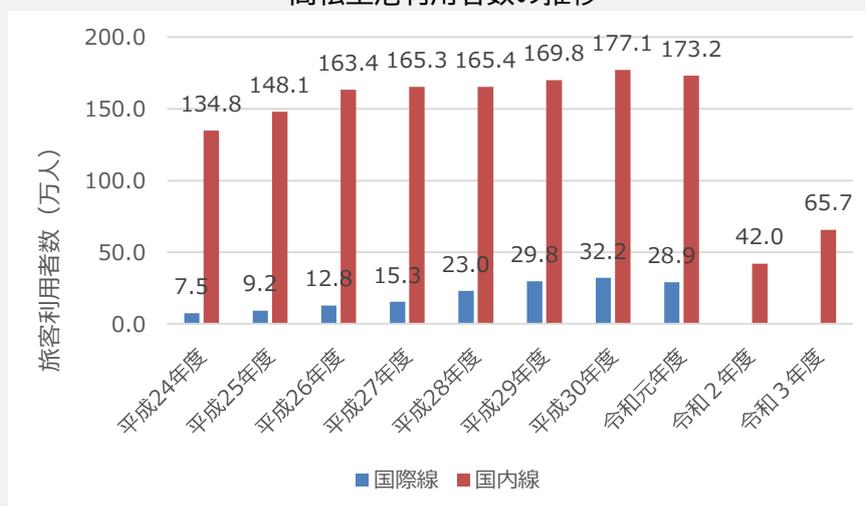
第2章 観音寺市の現状と課題

1 社会動向

(1)新型コロナウイルス感染症による社会経済活動の変化

- 新型コロナウイルス感染症により人同士のコミュニケーションの制限、人の移動の停滞により生産活動や物流が止まり、社会的に大きな影響を及ぼしました。また、感染拡大の抑制のための外出制限や自粛、渡航制限の導入などに伴い、観光や宿泊、航空など、人同士が接点を持つ対面サービスでは前例の無い規模で需要が縮小し、物についても耐久財の需要が急減しました。
- さらに、対面接触を行うサービス業を中心に雇用へも大幅な影響を及ぼしており、感染状況の先行きに関する不確実性や失業の増加、所得の低迷は、消費や投資を急速に縮小させ、危機の連鎖を生んでいます。
- その一方で観光として3密を回避するマイクロツーリズム、ワーケーション、アウトドア等への関心が高まるなど観光トレンドが変化しています。今後はアフターコロナとして、一定の制限はあるものの、リモートワークやワーケーションの推進による地方への移住の拡大や、地域の価値をその場で味わうデジタル化できない体験観光の価値の向上等へ変化していくと考えられます。
- 新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前、高松空港の利用者数は増加傾向にあり、特に国際線については、利用者数を大きく伸ばしてきました。感染症の影響を受け、利用者数は大幅に落ち込みましたが、近年は回復傾向にあり、早期に従前以上の利用者への回復が期待されます。

高松空港利用者数の推移



出典：空港管理状況調書

(2)大阪万博等近畿圏での観光動向

- 2025 年、大阪の夢洲で 2025 年日本国際博覧会が開催されます。1970 年の大阪万博、2005 年の愛知万博に続く 3 回目となる今回の大規模な大阪・関西万博においてもインバウンド需要への波及効果が期待されており、大阪・関西万博 来場者輸送具体方針によると来場者総数の約 2,820 万人のうち、国内来場者は約 9 割、海外来場者は約 1 割と想定されています。
- また、開催地の夢洲は、統合型リゾート（IR）の開業も予定されており、開催後も IR 誘致の実現によりインバウンドを含め多くの観光客が近畿圏を訪れることが期待されます。

(3)IT・ICT の進展

- IT・ICT 技術の進展が急速に進んでおり、2021 年にはデジタル庁も設置されるなど、各分野において国をあげてのデジタル化（デジタル・トランスフォーメーション）が進められています。
- 新型コロナウイルス感染症拡大により、テレワークやオンライン授業、E コマースの躍進など、市民生活においても、IT 技術の活用がより身近になりました。
- 今後も IT・ICT の進展は急速に進み、IT・ICT を活用した通信販売とともに新技術を用いたバーチャルショッピング等への展開など商品販売の方法は新しいライフスタイルに合わせて変化していくと考えられます。

(4)南海トラフ地震、大雨による災害の恐れ

- 我が国では近年、大規模な自然災害が相次いでいます。特に、平成 28 年（2016 年）熊本地震以降、平成 30 年 7 月豪雨、令和元年東日本台風、令和 2 年 7 月豪雨など、ここ数年はほぼ毎年のように大規模災害が発生しており、また、それらの災害を踏まえて、各種の法改正を始め、防災体制の強化に取り組んでいます。
- また、南海トラフ地震（M8-9 クラス）の発生確率は、30 年以内に 70% から 80% 程度と言われており、被害規模は東日本大震災を上回る見込みとなっています。
- 道の駅においても防災拠点として・耐震化や無電源装置などの施設整備の推進など機能強化が望まれており、国土交通省では、「道の駅」第 3 ステージの取組の一環として、都道府県の地域防災計画等で、広域的な防災拠点に位置づけられている「道の駅」について「防災道の駅」として選定し、防災拠点としての役割を果たすための、ハード・ソフト両面からの重点的な支援を行うこととしています。

2 位置・地勢

本市は、香川県の西南部(北緯 34°08'、東経 133°40')に位置し、総面積は 117.83 km² で西は瀬戸内海の燧灘に面し、沖合に伊吹島などの島しょを有しています。また、南東部は徳島県、南西部は愛媛県に接するとともに南部は高知県にも近く、四国のほぼ中央部に位置していることから、四国4県の県庁所在地には車で約 1 時程度で移動が可能です。

市内の主要幹線道路としては、国道 11 号と国道 377 号が北東から南西に通じ、国道 11 号と並行する高松自動車道には、大野原インターチェンジを介して接続しており、また、令和7年度(2025 年度)未完成に向け、現在(仮称)観音寺スマートインターチェンジを整備しています。これら3つの道路に加えて、市内には JR 予讃線が通り、全ての特急列車が停車する観音寺駅をはじめ豊浜駅、箕浦駅の3つの駅が、通勤、通学等の要所となっているなど、交通の便に恵まれています。

南部には、四国八十八箇所霊場第 66 番札所「雲辺寺」を擁する讃岐山脈の雲辺寺山、金見山など、標高 500~1,000m 級の山々が連なっています。市の中央部には三豊平野が広がり、香川県最大の流域面積を持つ財田川や柞田川などの河川が東部から西部に向かって流れています。市内にはため池が多数点在し、地勢の大きな特色となっています。

気候は、年間を通して雨が少ない瀬戸内式気候に属し、夏の季節風は四国山地、冬の季節風は中国山地によって遮られることから、台風や大雪の被害が比較的少ないことが特徴です。

■交通アクセス **スタイル整理中です。**

【車】高松中央 IC からさぬき豊中 IC まで約 35 分 岡山 IC からさぬき豊中 IC まで約 1 時間

松山 IC から大野原 IC まで約 1 時間 10 分 高知 IC から大野原 IC まで約 1 時間

徳島 IC から大野原 IC まで約 1 時間 20 分

【J R】J R 観音寺駅まで特急で

J R 高松駅から約 50 分 J R 岡山駅から約 1 時間

J R 松山駅から約 1 時間 40 分 J R 高知駅から約 2 時間

J R 徳島駅から約 1 時間 50 分

【空港】高松空港から車で約 1 時間

(仮称)観音寺スマートインターチェンジ整備について

- 令和 2 年(2020 年)10 月 23 日、国土交通省より発表があり、四国横断自動車道の(仮称)観音寺スマートインターチェンジの「新規事業化」が決定されました。
- 本スマートインターチェンジは、観音寺市中心市街地に最も近く、各拠点から高速道路へのアクセス性が向上することによって、物流面から企業活動を支援するほか、観光文化面では集客向上に、また、防災・医療面でも防災拠点として整備が図られるとともに、救急搬送にも効果を発揮するなど、多方面で観音寺市の発展に寄与するものとして期待されています。

観音寺市の位置図

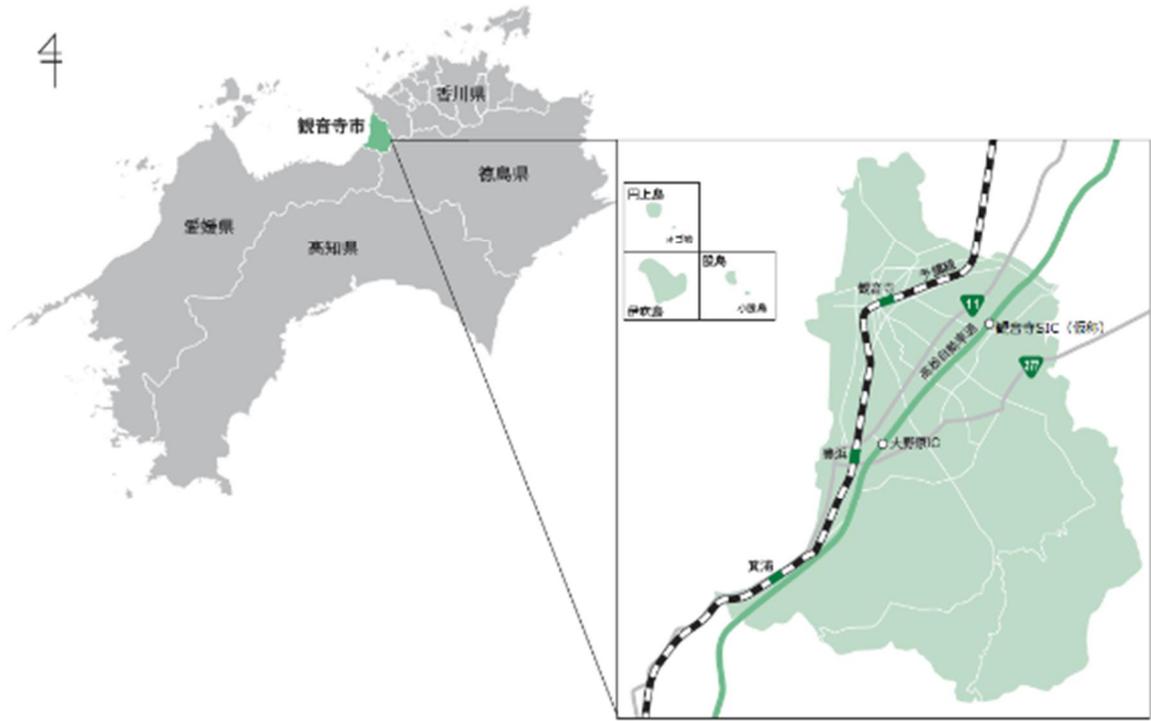


図2-1

出典:第2次観音寺市総合振興計画

3 人口

本市の総人口は、近年の人口のピークである昭和 60 年(1985 年)以降減少を続け令和 2 年(2020 年)の国勢調査によると 57,438 人と減少を続けており、減少傾向は今後も続くことが見込まれており、平成 26 年(2014 年)5月8日に日本創成会議が発表した「消滅可能性都市」のリストにあげられました。

国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という。)による、本市の人口推計によると、令和 27 年(2045 年)の総人口は、社人研推計準拠で 37,910 人という結果になっています。

これは、合併時の平成 17 年(2005 年)対比 41.88%の人口が減少すると予測されており、このまま、何の手も打たずにいると、現在の行政サービスの維持が困難となり、まちの活力の維持にも懸念を抱くところであります。

今後は、子育てしやすく、子どもを増やす方向に誘うような施策、移住促進や交流・関係人口の拡大に繋がる施策を講じ、本市を、生活し続けるまち、移住してくる人を増やせるまち、外部への流失を減らし、人が戻ってくるまちとしていかなければなりません。

また、産業誘致・雇用の場の確保による税収確保を通じて、行政サービスの水準維持を図ることはもとより、本市を訪れ、市内での消費や地域製品の消費を促すことに繋げる「にぎわい・交流・観光の促進」施策が重要となります。

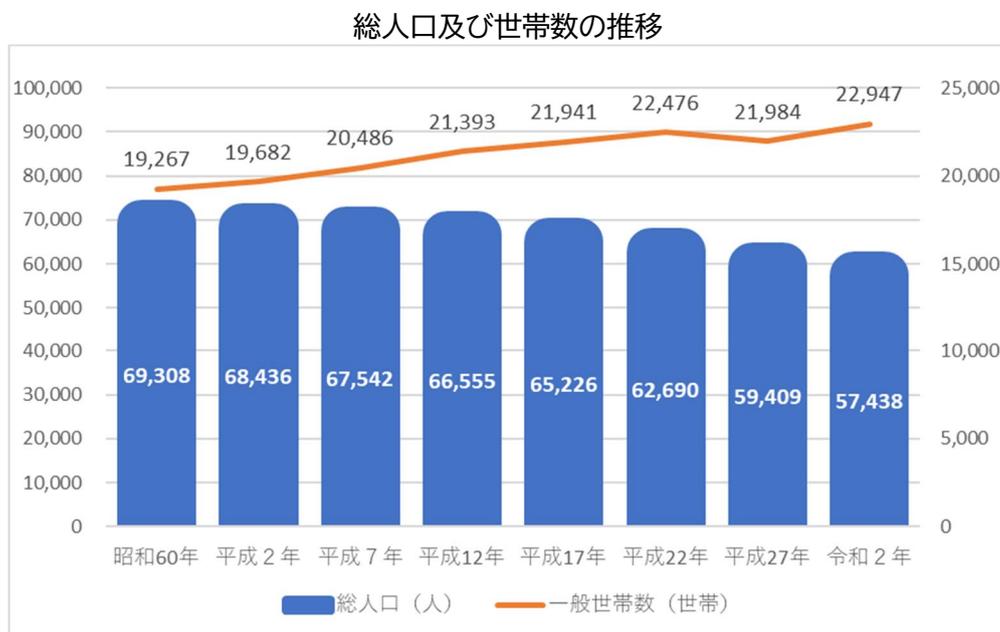


図2-2

出典:国勢調査

消滅可能性都市

- 消滅可能性都市とは、20~39 歳の女性の数が、2010 年から 40 年にかけて 5 割以下に減る自治体。日本創成会議は将来人口の推計に際して、20~39 歳までに約 3 割の人口が大都市に流出することを前提としたものである。

総人口における年齢3区分人口の比率と推移

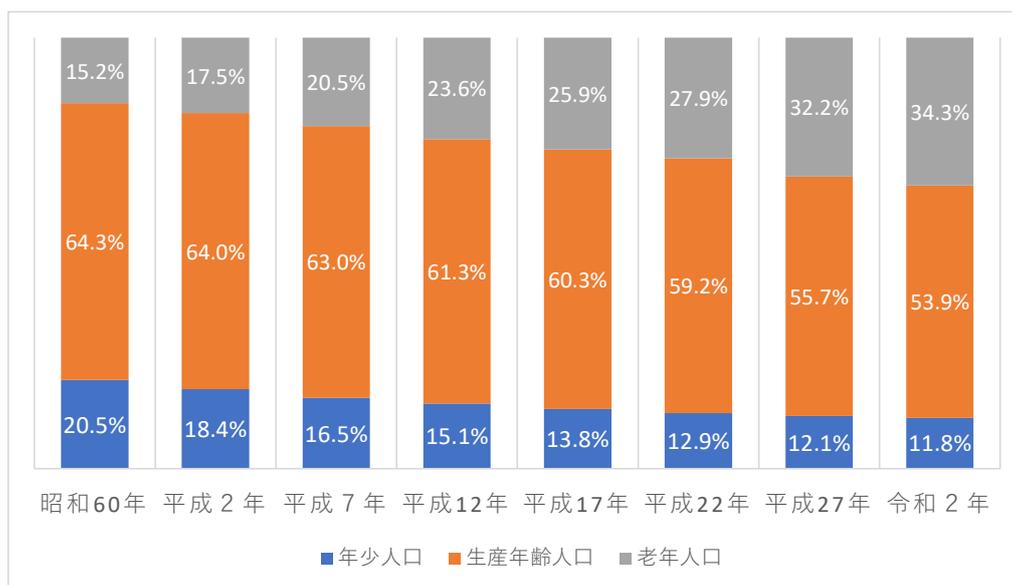


図2-3

出典:国勢調査

4 産業

1) 農業

本市の農業は、瀬戸内式気候などに恵まれた自然条件とその立地条件を生かし、野菜を基幹に、米麦、果樹、畜産等を組み合わせた複合経営が特色であり、近年では経営の発展を図るため、一部の農家に施設園芸の導入が盛んとなっています。

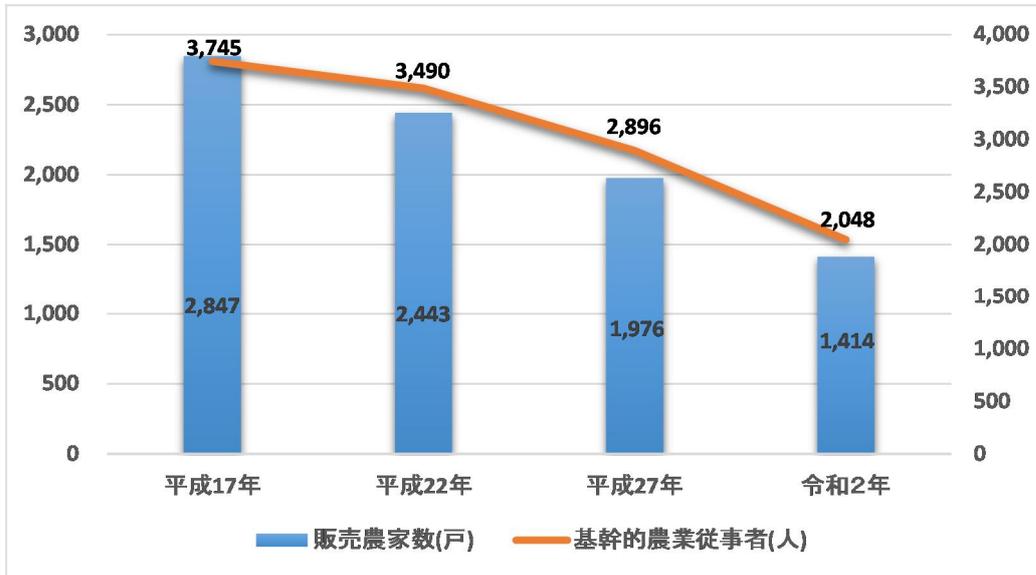
また、1農業経営体あたりの農業産出額(推計)をみると令和2(2020)年は688.8万円/経営体となっており、香川県全体の平均490.9万円/経営体と比べ、平均より高い水準にあります。

しかし、農業経営主の年齢階層をみると、後継者不足などの問題により農業経営体の70.7%が65歳以上となっており、総農家数も減少傾向を続けています。

それらに起因して、農地の遊休化、経営耕地面積の減少や耕作放棄地の増加にもつながり、農業を取り巻く情勢はますます深刻化しています。

今後は、レタス、ブロッコリー、青ネギ等高収益作物の推進や付加価値の向上等による収益力強化、販売に工夫を凝らしてきた市内青果店等との連携、産地から直送の形での販売方式の充実など流通ルート確保や高品質な産品の産地であるからこそ、来訪者に美味しく食され消費を促すことも重要となります。

販売農家数と基幹的農業従事者数の推移



出典:農林業センサス

令和2年の経営主顔送別の経営対数と農業産出額(耕種)の内訳

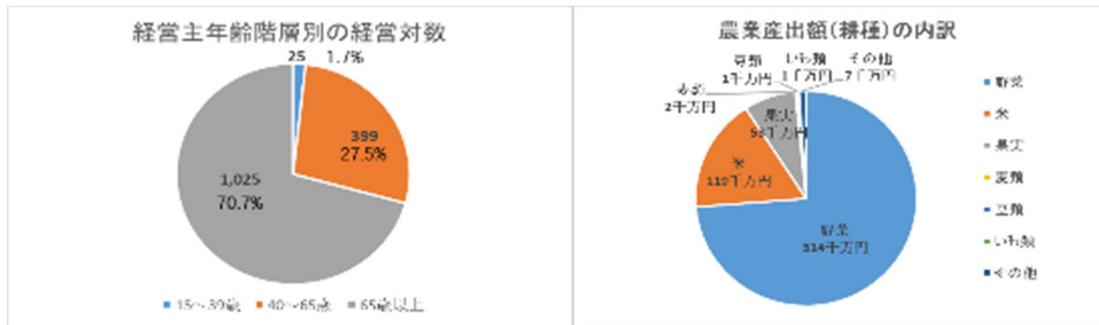


図2-5

図2-6

出典:農林業センサス・生産農業所得統計

1農業経営体あたりの農業産出額(生産農業所得統計)

	経営体数	農業産出額合計 (千万円)	1農業経営体あたりの 農業産出額(万円/経営体)
香川県	16,459	8,080	490.9
観音寺市	1,449	998	688.8

表2-1

出典:農林業センサス・生産農業所得統計

2) 畜産業

本市の畜産業は、温暖な気候に恵まれ、肉用牛、酪農、養豚、養鶏(採卵鶏、ブロイラー)等あらゆる畜種を営んでおり、オリーブ牛をはじめとした高品質な産物を産出しています。

しかし、就業者の高齢化や担い手不足に直面しており、後継者の育成が大きな課題となっています。

今後は、高品質な畜産物の生産の振興に努め、経営の安定化を図るとともに、販売に工夫を凝らしてきた市内精肉店等との連携、販売方式の充実など流通ルートの確保や高品質な産物の産地であるからこそ、来訪者に美味しく食され消費を促すことも重要となります。

畜産業経営客体の推移と令和2年の農業産出額(畜産)の内訳

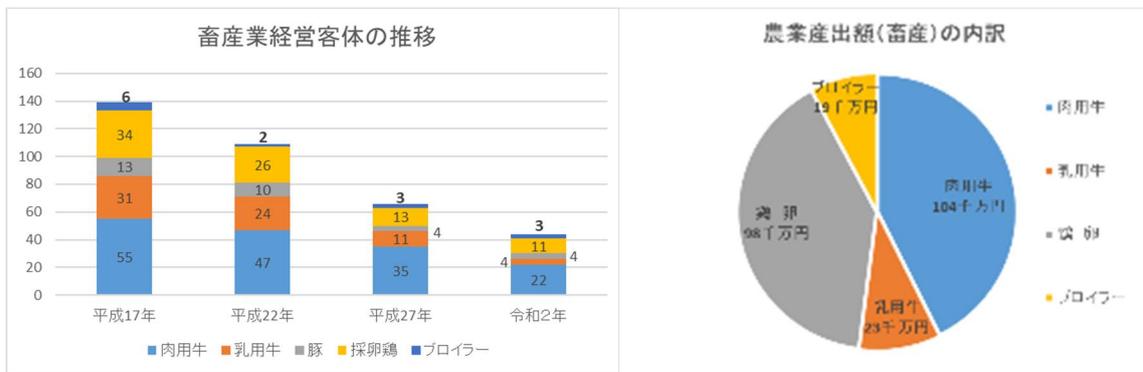


図2-7

図2-8

出典：農林業センサス・生産農業所得統計

3) 漁業

本市の漁業は、内海の漁場という特性により、魚類・貝類・甲殻類など年間を通して様々な海産物を漁獲することができます。

また、伊吹島は全国有数のいりこ(煮干し)の産地として知られており、沖合で漁獲されるカタクチイワシを伊吹島で加工した煮干しは讃岐うどんの出汁には欠かせない「伊吹いりこ」として香川を代表するブランド食材の一つとなっています。

しかし、漁業を取り巻く環境は、水産資源の減少、燃油の高騰、漁業者の高齢化や担い手不足など厳しい状況にあります。

今後は、瀬戸内海の良質な海産物を後世に伝えるとともに、水産物の付加価値を高め、地産地消や地産外商を推進していくため、本市の良質な海産物を新鮮なままで消費者の手に渡るように、市内鮮魚店等との連携、販売方式の充実など流通ルートの確保や来訪者に新鮮なまま美味しく食され消費を促すことも重要となります。

漁業経営体及び漁業就業者の推移と魚種別漁獲量

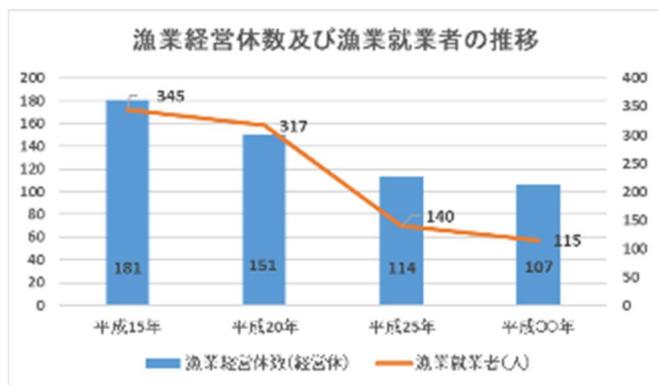


図2-9

平成30年海面漁業の魚種別漁獲量(うち上位10種)

順位	魚種	漁獲量(t)
1位	いわし類	10,587
2位	たい類	84
3位	えび類	74
4位	さわら類	69
5位	すずぎ類	52
6位	ひらめ・かれい類	27
7位	いか類	19
8位	貝類	17
9位	ふぐ類	12
10位	ぶり類	7
	たこ類	7
漁獲量合計		11,316

表2-2

出典:漁業センサス・海面漁業生産統計調査

4)工業

本市の工業は、従業者4人以上の事業所数は180事業所、従業者数は7,116人となっており、製造品出荷額等は2,036億4,189万円(令和2年工業統計)となっています。製造品出荷額等を産業中分類別にみると、最も多いのは、パルプ・紙・紙加工品の707億6,987万円、次いで食料品の422億1,386万円、化学の241億8,918万円(令和2年工業統計)の順となっています。

一方で、事業所数及び従業者数が最も多いのは、食料品の69事業所、1,967人であり、その中でも、ちくわ・かまぼこ・てんぷらなどの練り物は、本市の伝統的な地域産品あり、種類も豊富でその味は極上です。

また、令和元年には市内の事業所が「どっかーん！！と観音寺を盛り上げ隊」を立ち上げ、地域と一体となった地域ブランドの確立や地域の活性化を図るため、地域産品をふんだんに使用した新商品の開発や物産展の開催をしています。

今後は市内で製造される、商品やその名産をPRするため、トップセールスやシティプロモーションを推進し、首都圏などにおける販路の拡大や市内で提供できる売り場の設置を推進はもとより、本市の優れた地域産品を、来訪者に出来上がり早々のものを食され、それにより地域産品のPRに繋げる取組が重要となります。

年間製造品出荷額等(従業員4人以上)の推移(上位3位)

(単位：万円)

年次	製造品出荷額等(従業員4人以上)			
	合計	食料品	パルプ・紙・紙加工品	化学工業
平成18年	13,407,324	3,469,941	4,321,119	χ
平成24年	17,677,561	3,496,734	5,912,259	χ
平成28年	20,807,779	4,194,898	6,902,756	3,729,411
令和2年	20,364,189	4,221,386	7,076,987	2,418,918

χ：数字が秘匿されているもの

表2-3

出典：工業統計調査、経済センサス-活動調査

年間製造品出荷額等(従業員4人以上)の推移(上位3位)

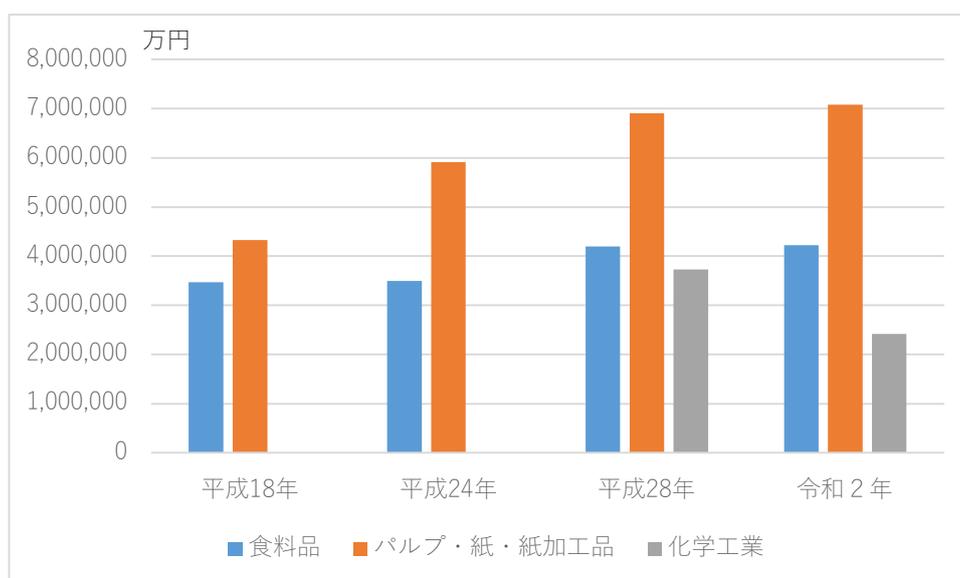


図2-10

年間製造出荷額等(従業員3人以上)上位3位の事業所数と従業員数の推移

年次	産業計		食料品		パルプ・紙		化学	
	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数
平成18年	256	6,924	95	2,256	23	1,232	1	350
平成24年	218	6,810	88	1,928	20	1,455	2	693
平成28年	219	6,611	80	2,050	23	1,355	3	492
令和2年	180	7,116	69	1,967	24	1,478	3	698

※工業統計調査、経済センサス・活動調査

表2-4

出典：工業統計調査、経済センサス-活動調査

5)商業

本市の商業は、大正2年(1913年)の観音寺駅整備により駅通り、七間橋商店街が形成され、その後、現在の中心市街地の形に発展してきました。観音寺駅がバス路線の起点となったことで、金融機関、飲食店、映画館等の商業機能が集積し、西讃地域の商業拠点としての地位を確立しました。

近年は、経営者・事業主の高齢化や後継者不足が深刻な状況にあり、また、近隣市町における大型商業施設の進出が相次ぐなど、平成11年度(1999年度)以降は商店数や販売金額など減少傾向にあります。

今後は、魅力と特色のある独自のイベントの開催、アニメによる地域活性化事業や地域通貨の活用などにより、地域に根差した楽しさと個性ある商業空間づくりを推進するとともに、交流・関係人口の増加による商業活性化を目指し、市内全域及び周辺地域の回遊性の向上を図ることが重要であります。

商店数、従業者数、年間商品販売額の推移

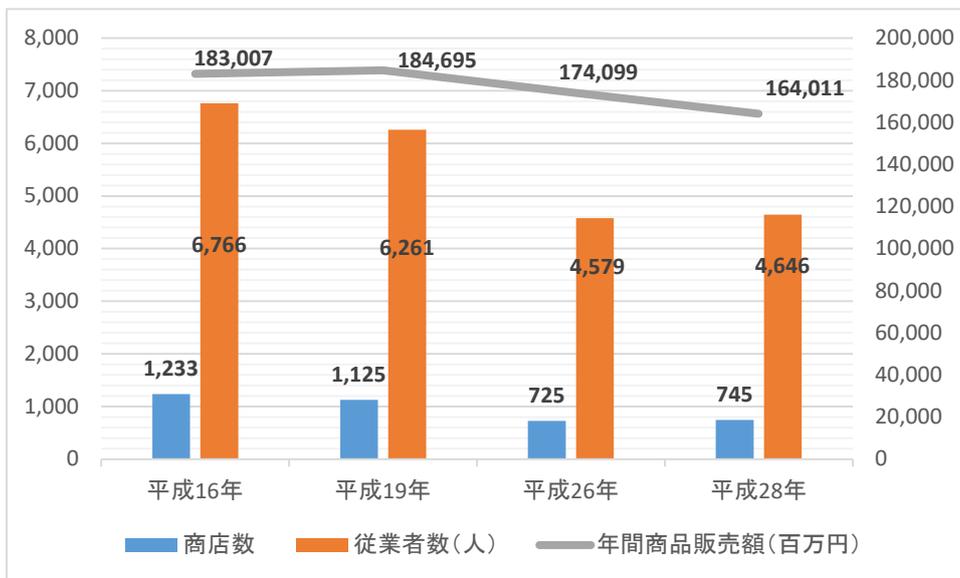


図2-11

出典:商業統計・経済センサス

市内の経営者・事業主の年代と後継者の有無(予定)

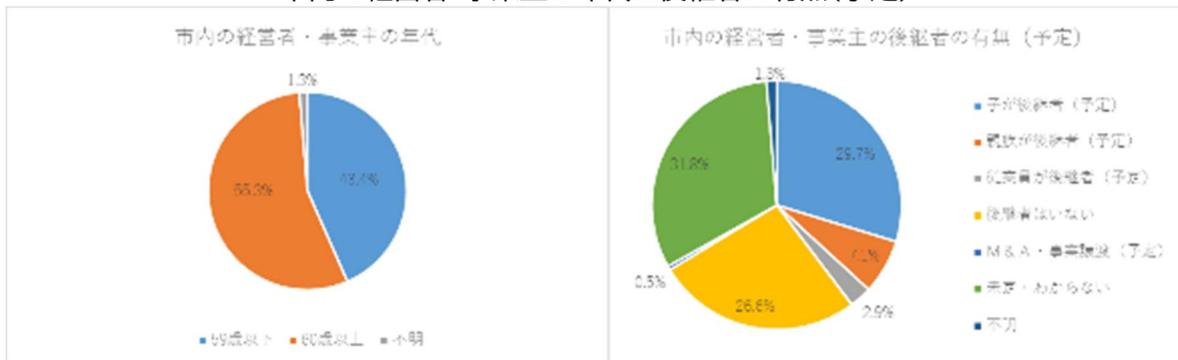


図2-12

図2-13

出典:観音寺市中小企業振興計画

6)観光

(1)観光動向

本市の観光は、「銭形砂絵」のある琴弾公園と四国八十八箇所霊場第 66 番札所「雲辺寺」の参詣者が利用する「雲辺寺ロープウェイ」や四国霊場唯一の一寺二霊場である第 68・69 番札所「神恵院・観音寺」をはじめ、絶景のパワースポットとして知られる高屋神社「天空の鳥居」、3年ごとに開催されている「瀬戸内国際芸術祭」などもあり、年間約 150 万人近くの観光客が訪れていましたが、近年は新型コロナウイルス感染症の影響により 100 万人を割り込む水準まで減少しました。

本市の令和3年度(2021 年度)観光消費額の実績については、4,062 円となっており、全国平均 34,240 円(旅行・観光消費動向調査令和3年年間値(確報))と比べると大きく下回っています。また、市内にある主な宿泊施設収容力が 38 施設、約 1,500 人程度と、決して多くない水準であり、観光旅行の形態としては、観光客に占める宿泊者の割合は 13.5%であり、日帰り旅行が多くなっています。

今後は、本市のどこに行けば必ず地域産品が手に入るか、どこを拠点に各スポットを巡ると魅力的なのか、季節のイベントや企画イベントなどの情報を、来訪者の視点に立ち、デジタル、IT の活用により情報の発信を適切に行うことが重要であります。

また、本市の課題である、来訪者を本市にできるだけ長く滞在いただけるよう、周辺自治体との広域連携による新たな魅力的な観光づくりや宿泊施設の推進による回遊性の向上、消費の増加、観光スポット訪問の機会の増加などによる交流・関係人口の拡大により観光消費額の増加を目指すことが重要であります。

さらには、市内での定住、移住促進、交流・関係人口の拡大の観点からは、経済価値の追求だけでなく、「楽しむ」、「くつろげる」、「面白い」、「癒される」と言った精神的な価値も提供し、お祭りやイベントなどはもとより、日常的な公園・遊び場、くつろぎと憩いの空間、飲食や会話の空間、アート・文化の空間、屋外教育活動の空間なども、可能な範囲で、充実させることも重要であります。

経路検索サービスでの検索回数(自動車移動)

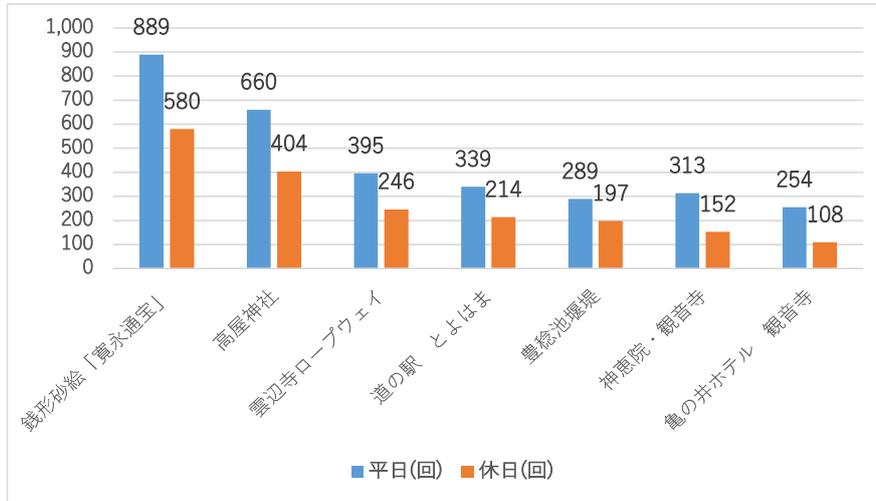


図2-14

出典:RESAS(地域経済分析システム)を加工して作成(経路検索条件データ 2020年)

観音寺市への観光客数の推移

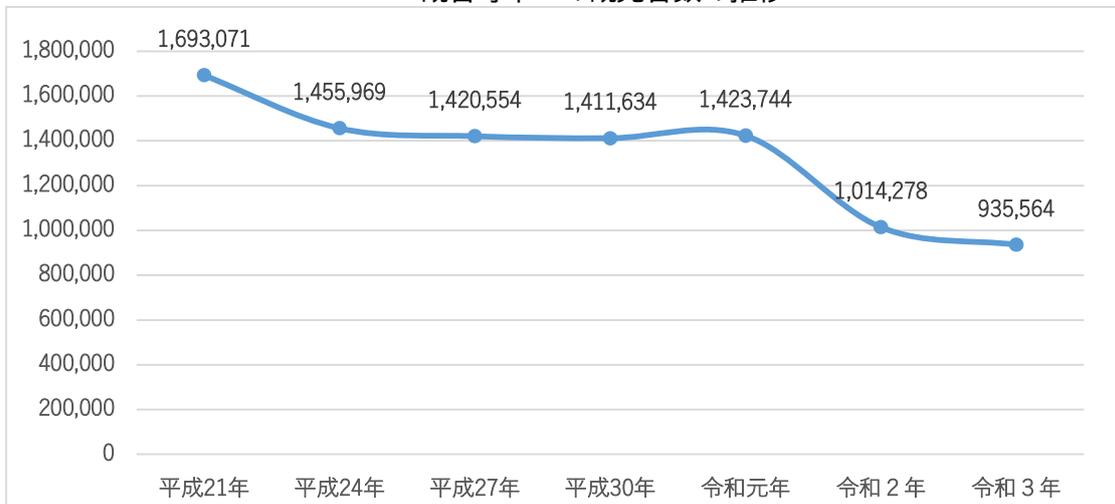


図2-15

出典:香川県観光地等入込客数調査

(2)集客可能な施設等

本市の集客可能な施設等は以下のようなものがあります。

① 琴弾公園	② 一の宮公園	③ 雲辺寺山頂公園 (天空のブランコ)	④ 雲辺寺ロープウェイ
⑤ 有明浜	⑥ ちょうさ会館 豊浜郷土資料館	⑦ ふるさと学芸館	⑧ 世界のコイン館 大平正芳記念館
⑨ 伊吹島	⑩ ハイスタッフホール	⑪ 図書館	⑫ ほっとはうす萩
⑬ 道の駅ことひき	⑭ 道の駅とよはま	⑮ 高屋神社 ～天空の鳥居～	⑯ 第68・69番札所 神恵院・観音寺
⑰ 一夜庵	⑱ 大野原古墳群	⑲ 銭形砂絵 「寛永通宝」	⑳ 豊稔池堰堤
㉑ イサム・ノグチ遊具彫刻	㉒ きんたろう	㉓ 生木地藏尊	㉔ 三架橋

(3) 観音寺市のイベント

<p>①砂ざらえ</p> <p>毎年、春と秋に市民を中心に数百名で、砂絵を美しく整えています。砂ざらえの開催時のみ、深さ 2メートル以上の砂絵に入ることができます。</p>	<p>②JR 豊浜駅つつじ祭り</p> <p>5月に開催されるつつじ祭りは、約 200 本のつつじが駅構内を埋め尽くします。バザーや青空市なども催されます。</p>	<p>③粟井あじさい祭り</p> <p>6月中旬頃に開催されるあじさい祭りは、約 3,000 株の色とりどりのあじさいが咲き乱れ、多くの人々が訪れる名所となっています。</p>
<p>④地曳網体験</p> <p>夏に昔ながらの伝統漁法である地引網が体験できます。たくさん獲れた場合には、魚の持ち帰りができます</p>	<p>⑤銭形まつり</p> <p>銭形砂絵「寛永通宝」にちなんで、7月に開催される夏の一大イベントです。ライブや花火など多彩なイベントで大いに盛り上がります</p>	<p>⑥サマーフェスティバル イン 大野原</p> <p>毎年夏に大野原中央公園で開催する夏祭りです。フリーマーケットの出店など様々なイベントが満載です。</p>
<p>⑦豊稔池のゆる抜き行事</p> <p>下流にある井関池の貯水量が 3 割を切る 8月に、ごう音とともに毎秒 4 トンもの水が放流される景色は壮観です。</p>	<p>⑧ゆゆゆスタンプラリー</p> <p>このアニメの舞台のモデルになった観音寺市内の各地を「聖地」として巡礼するファンが、スタンプラリーによって、聖地以外の観光地や市内協力店舗にも立ち寄っています。</p>	<p>⑨トライアスロン</p> <p>8月下旬に開催される「日本学生トライアスロン選手権観音寺大会」は、今年で14回目でした。全国から200人超の参加選手やスタッフ、観覧客などが宿泊を伴って観音寺市を訪れます。</p>

<p>⑩萩まつり</p> <p>萩の花が満開になる 9 月 23 日(秋分の日)に行われ、萩原寺では、約 2500 株の赤、白の可憐な花を愛でながら、野点茶会や琴の演奏が楽しめます。</p>	<p>⑪瀬戸内国際芸術祭</p> <p>3年に1度開催される瀬戸内国際芸術祭は、伊吹島が会場となり、会期中に約1万3千人が訪れ、現代アートに触れ島の魅力を伝えています。</p>	<p>⑫よるしるべ</p> <p>夜の街を、めぐるイベント「よるしるべ」は今年で 10 回目でした。中心市街地を舞台に、昼の顔とは違う幻想的な風景が夜の街に現れます。</p>
<p>⑬ちょうさ祭</p> <p>観音寺市内には 118 台の「ちょうさ」があり、秋を中心に観音寺市内の各地区で「ちょうさ祭」が行われ、まちは熱気に包まれます。</p>	<p>⑭法泉寺もみじ祭り</p> <p>11 月に開催されるもみじ祭りでは、約 30 本のもみじが境内を赤く染め上げ、琴の演奏、野点茶会、バザーなどを楽しめます。</p>	<p>⑮ONSEN・ガストロノミーウォーキング</p> <p>地元の名所を徒歩で巡りながら食を楽しんだり、温泉につかったり、市内の魅力が堪能できます。</p>

市内には、国内外から人を惹きつける様々な名所旧跡などの多くの集客可能な施設等や季節のイベントを結び、連動させ、相乗効果を発揮させるような核となる情報発信の拠点もなく、デジタルを活用した発信も不十分であり、本市の魅力が十分に PR できていない現状にあります。

また、全ての特急列車が止まり、四国各地や岡山方面からの至便の地にある JR 観音寺駅についても、駅構内にそのようなスペースがなく、発信拠点として十分な役割を果たせておりません。

そのため、本市の来訪客にとっても、各観光スポットを訪ねる方法も解らず、市内の観光を諦めさせ、本市の訪問を失望させる一因にもなっており、「点」を「線」で結び、さらに「面」にしていく発想での取組が不足しています。

今後は、コンテンツを集積し、市民や来訪する観光客に、デジタル、IT の活用により情報の発信や市内を回遊してもらえるような仕組みづくりと、本市、広くは四国全体のゲートウェイとして、情報の発信拠点の充実が重要となります。

(4)観音寺市の地域産品

<p>①ちくわ・かまぼこ・てんぷら</p> <p>瀬戸内海の幸に恵まれた観音寺市は新鮮な魚を原料としたちくわ・かまぼこを販売する店が多数あります。種類も豊富で、その味は極上です。</p>	<p>②おいり</p> <p>西讃伝統菓子の一つ、「おいり」はカラフルな彩りで目を引き、サクッとした食感が特徴です。嫁入り菓子として親しまれていますが、近年ではソフトクリームのトッピングとしても注目されています。</p>
<p>③麴</p> <p>漂流する都の人々を助け、甘酒や麴の作り方を教わったという伝説があり、500年以上続く古式製法が伝えられています。</p> <p>室本町にある皇太子神社は麴の神様としても知られています。</p>	<p>④伊吹いりこ</p> <p>伊吹島沖合で獲れたものは「伊吹いりこ」のブランドで全国に出荷されています。“いりこ”の原料となるカタクチイワシは、獲れてから加工場に送られてポンプで吸い上げ、すぐに加工されます。漁から加工までを一貫して行うことが上質な“いりこ”になる条件です。最盛期は、6月から9月頃です。</p>
<p>⑤レタス</p> <p>「らりるれレタス」は香川県の地域産品で、特に観音寺市は県内最大の生産地です。シャキツとした歯ごたえとほのかな甘み、時間がたってもみずみずしいことが特徴です。出荷時期は、10月から5月頃まで、特に12月から3月頃が収穫最盛期を迎えます。</p>	<p>⑥ブロッコリー</p> <p>香川県の地域産品で、観音寺市は県内有数の生産地です。</p> <p>鮮度を大切にするために朝に収穫し、氷詰めをして出荷しています。</p> <p>出荷時期は10月から6月頃までです。</p>

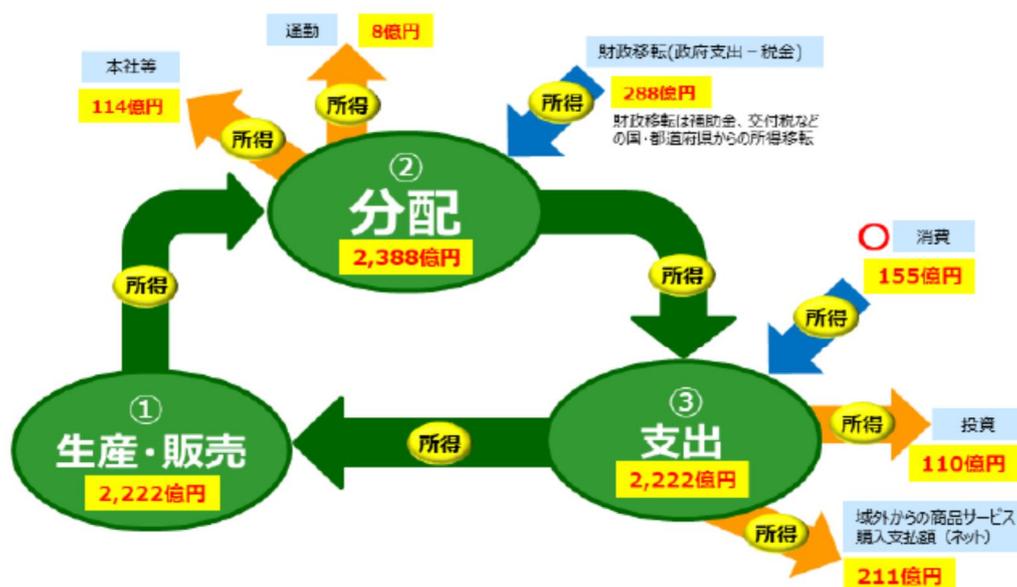
<p>⑦ロメインレタス</p> <p>観音寺市大野原町のレタス農業者が中心となり生産拡大に取り組んでおり、本市は県内最大の生産地です。肉厚の葉とサクツとした食感が特徴で、サラダのほか、加熱してもおいしく、鍋物や炒め物にも最適です。</p> <p>出荷時期は 10月から 5月頃までです。</p>	<p>⑧セルリー</p> <p>観音寺市は、県内唯一のセルリーの産地です。ビタミンやミネラルが豊富で健康野菜として注目を集めている野菜で、独特の香りとシャキシャキした食感が特徴です。</p> <p>1月から 5月頃までが収穫時期で、3月頃が収穫最盛期を迎えます。</p>
<p>⑨いちご</p> <p>柔らかく、ジューシーな果肉が特徴の、香川県のオリジナル品種「さぬきひめ」。</p> <p>香り豊かで、酸味と甘みのバランスが絶妙です。</p> <p>観音寺市は、県内有数のいちごの産地です。</p> <p>11月から 6月頃までが出荷時期で、特に 3月から 5月頃までが最盛期を迎えます。</p>	<p>⑩梨</p> <p>香川県の特産果樹で、県下の梨の産地である観音寺市豊浜町では、「ホウナンの梨」として販売しています。100 年以上の歴史があるホウナンの梨には、歯ごたえが良く、糖度が高い「幸水(こうすい)」や、柔らかい果肉に果汁がたっぷりと含まれている「豊水(ほうすい)」、大玉で果肉が緻密で柔らかく、ジューシーな「あきづき」などの品種があります。</p> <p>出荷時期は、幸水が 8月上旬から 8月中旬、豊水が 8月下旬から 9月上旬、あきづきが 9月中旬から 9月中下旬です。</p>

その他にも、本市の地域産品は多数ありますが、いずれも、十分に PR できていない現状であります。今後は、PR により東京圏・大阪圏以外にも、良質な地域産品を市民の方や来訪者に提供する拠点を整備することが重要となります。

7) 地域経済循環構造

理想的な経済構造は、地域が地域資源を活かして域内外で資金を稼ぐ力をつけて、稼いだ資金をできるだけ域外に漏らさず地域で循環させることで、最終的に地域住民の所得向上につながる構造です。観音寺市の地域経済循環構造(2018年)は、「稼ぐ力」と「所得の循環構造」から構成され、地域の産業が経済活動を通じて資金を生み出す力をどの程度持っているかを把握するものです。平成30年(2018年)の本市における地域経済循環構造は次のとおりでした。

観音寺市の地域経済循環構造(2018年)



①生産・販売	本市の生産・販売により2,222億円の付加価値を稼いでいました。
②分配	本市の分配は2,388億円で、①生産・販売2,222億円よりも大きくなっています。これは、財政移転(国・都道府県からの補助金、交付税など)により288億円流入したことが要因です。一方で域外の本社などへ114億円が流出、さらに域外から通勤してくる雇用者への所得が8億円流出しており、本市で稼いだ資金の約5.5%が域外に流出していました。
③支出	本市では買い物や観光などで消費が155億円流入していました。しかし投資で110億円、域外からの商品購入などで211億円が流出していました。

資料:環境省「地域経済循環分析」

図2-16

観光消費が本市に流れ込んでいても、観光客が購入する土産物や飲食料品などが本市外の生産品であれば、その支払いとして観光消費は本市外に流出します。そのため、流入した資金は住民所得に届くことなく、観光施策による恩恵を地域が十分享受できていないことになります。本市で多く生産され付加価値を稼いでいる分野、いわゆる本市が得意とする商品・サービスを、本市を訪れる観光客が購入する仕組みづくりが必要と考えます。

出典:観音寺市観光基本計画

5 市民から見る観音寺市の特徴

1)市民ニーズ(アンケート調査結果抜粋)

本市では、「第2次観音寺市総合振興計画(後期基本計画)」の策定に向けて、市民が観音寺市に対して感じていること、考えていることを把握し、計画に反映することを目的として、アンケート調査を実施しました。

対象は、観音寺市在住の18歳以上2,000人を住民基本台帳により無作為で抽出し、回収数は752人でした。また、市内在住の中学2年生と市内の高等学校に通う高校2年生合計978人に依頼し、回収数は801人でした。

(1)観音寺市での満足度

①定住について

- 今後も観音寺市に住み続けたいかの『居住意向あり』は74.6%で、前回調査の77.8%より減少しました。
- 市民や中学生と比べ、高校生の居住意向が低く、子ども達の中では男性と比べ、女性の居住意向が低い傾向がみられました。

②市への愛着度について

- 観音寺市に対する愛着度は、『愛着あり』は67.9%で前回調査の77.0%より減少しました。
- 定住と市への愛着度は相関性があることがうかがえる中で、中学生を除き、愛着度が前回の調査より減少しています。とりわけ高校生については、減少が大きいことに留意する必要があります

(2)観音寺市の強み・特性

①自然・環境について

- 観音寺市の良いところについて、「自然が豊かだ」は、中学生で49.5%と2番目に割合が高く、高校生では40.9%と最も高くなっています。
- 豊かな自然環境については、中学生・高校生が良いところとして認識しており、特に中学生においては、これを守りたいという意識が高い傾向がみられました。

②第一次産業について

- 「地域資源を活かした農林業の振興」「好漁場を活かした水産業の振興」は満足度・重要度がともに高くなっています。
- 豊かな自然環境を背景とした第一次産業は、観音寺市の強みであり、市の取組に対する市民の満足度・重要度も相対的に高くなっています。

③安心・安全について

- 観音寺市の魅力のある地域資源の「災害が少なく、温暖な気候」の割合は、市民で72.8%と最も高くなっています。一方、中学生は34.8%、高校生は23.7%と低くなっています。
- 観音寺市は災害や犯罪等が少なく、安全・安心であると認識されていることがうかがえました。

④子育て・教育について

- 子育て・教育については、市の取組に対する市民の満足度・重要度においておおむね高く、住み続けたくない理由の「子どもの保育・教育のことが心配だから」は、5.4%と前回調査から 8.9 ポイント減少し、前回の調査の結果と比較しても改善の傾向がみられました。

⑤祭り等のイベントについて

- 観音寺市の魅力のある地域資源の「ちょうさ祭り等の伝統的な祭り・イベント」は、市民は 28.3%。また、中学生は 65.2%、高校生は 59.1%となっています。
- ちょうさをはじめとした市の祭りやイベントは、特に中学生・高校生にとっては大きな楽しみであることがうかがえました。

(3)観音寺市の課題について

①商業振興について

- 「にぎわいと活気を生み出す商工業の振興」は重要度が高い一方で、満足度が最も低い。
- まちづくりに関する意見、提案の自由記述においても、市民、中学生、高校生からそれぞれ商業施設の誘致、商店街の振興等に関する意見が多くみられました。
- 全般的に商業の振興に関する意見が多く、市の取組に対する市民の評価についても、重要度が高い一方で、満足度は最も低くなっていました。

②公園、遊び場について

- 住みたくない理由で、中学生は「遊ぶ場所、遊ぶ施設が充実していないから」が 47.2%（前回調査からは 27.1 ポイントと大きく増加）、高校生は「娯楽施設や娯楽の機会が充実していないから」が 37.1%と高くなっています。
- 全般的に公園、遊び場の整備に関する意見が多く、特に中学生・高校生のニーズが高い傾向がみられました。

③働く場所について

- 住み続けたくない理由の「市内に適当な職場が少ないから」は、23.0%と、具体的な内容として2番目に割合が高く、前回調査から 5.5 ポイント増加しました。
- 市民、高校生の調査結果から、雇用の場の確保に向けた企業誘致や、就労ニーズにマッチした雇用の場づくりが求められています。

(4)観音寺市のまちづくりについて

①将来像の実現に向けて、特に重要な取組について

- 将来像の実現に向けて特に重要な取組について、割合が20%を超えるものは、1番目に「雇用」「創業」「産業」の強化による、地域経済の活性化」が 50.5%、2番目に「訪れたい」「住み続けたい」「住んでみたい」まちの魅力の向上」が 37.8%、3番目に「地震や災害に強く安全に安心して暮らせるまちの構築」が 25.6%、4番目に「子育てニーズに対応した支援の充実」が 20.2%でした。
年齢別でみると、年齢が低いほど「子育てニーズに対応した支援の充実」の割合が高

6 新「道の駅」への期待と既存道の駅の現状

1) 新「道の駅」に対する市民ニーズ(アンケート調査結果抜粋)

本市では、観音寺市観光基本計画改定作業における観音寺市の観光に関する市民アンケート・高校生アンケート項目において、新「道の駅」について尋ねました。

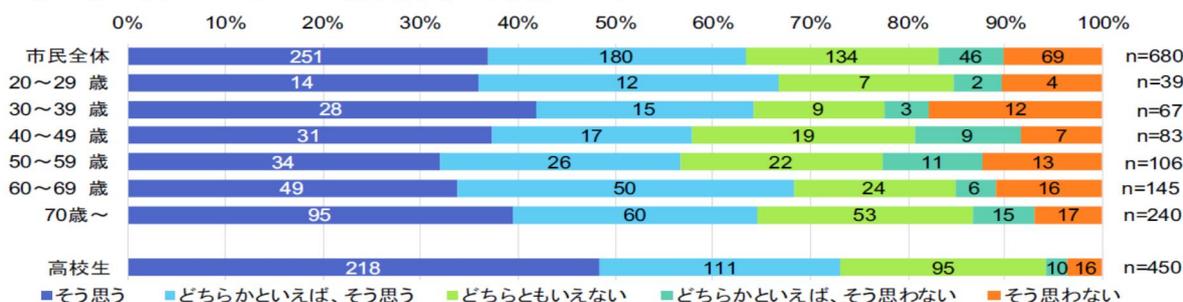
対象は、観音寺市在住の20歳以上2,000人を住民基本台帳により無作為で抽出し、回収は680人でした。

高校生アンケートの中で、香川県立観音寺第一高等学校と香川県立観音寺総合高等学校の在校生に依頼し、回収数は450人でした。

調査結果については、下記のとおりとなりました。

観音寺市の観光に関する市民アンケート・高校生アンケート(抜粋)

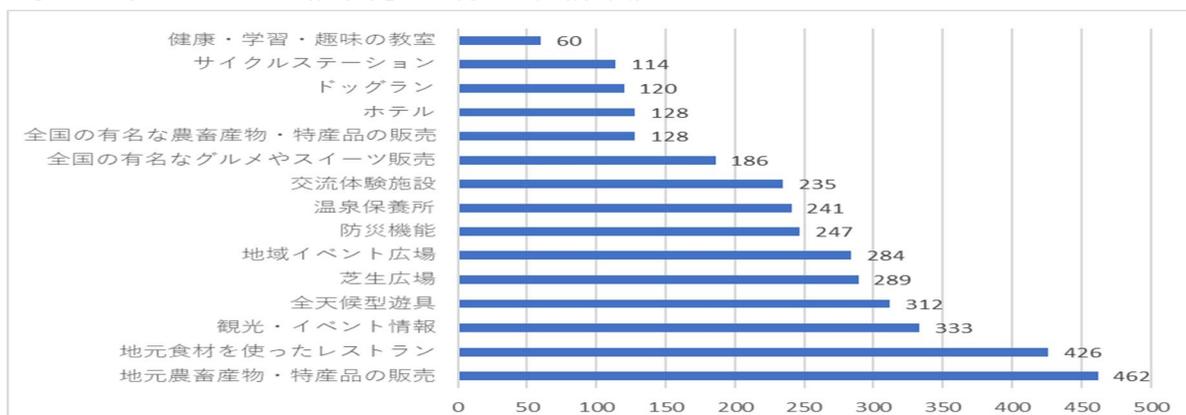
⑩ 道の駅「かんおんじ(仮称)」に期待しますか



・「道の駅に期待しますか」との質問に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定的な回答をした比率は、6割、高校生で7割を超えました。

・一方、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と否定的な回答した比率は、2割弱、年代別でみると、若い世代で肯定的な見方の比率が高く、中年層で否定的な見方の比率が高くなる傾向がみられました。

⑪ 道の駅「かんおんじ(仮称)」に期待する設備・機能



・「道の駅にはどのような設備や機能があるとよいと思いますか」との質問に対しては、「地元農畜産物・特産品の販売」や「地元食材を使ったレストラン」などが上位に入っていますが、様々な施設に回答が分散しました。

今後は、新「道の駅」の必要性、基本理念及びメインターゲットを明確にし、より具体的な事項について、市民や来訪者の意見を把握するために、あらためて「道の駅」アンケートを実施します。

2)既存道の駅の現状について

本市には既に、「道の駅ことひき」及び「道の駅とよはま」の2つの道の駅があります。

○道の駅ことひき……………平成6年(1994年)8月登録(既存施設を道の駅として登録)

市道立石1号線沿い市北部に位置しており、地域産品販売所や産直のほか、「世界のコイン館」や「大平正芳記念館」があるほか、大正ロマン香る「ことひきカフェ」など、多彩な施設が整備されています。周辺には、銭形砂絵を要する琴弾公園や第68・69番札所「神恵院・観音寺」などもあり、四国外からの来訪者も多くなっていますが、既に運営していた施設を活用し、道の駅として登録したものであり、交通アクセスが脆弱です。また、瀬戸内海国立公園内に立地しているため、増改築に制限があり、大規模な改修や拡張が難しい状況にあります。

【設備一覧】

駐車場	売店	喫茶・軽食	展望地	博物館等
108台	約135㎡	約54㎡	有	世界のコイン館 大平正芳記念館
観光案内	無線LAN	公園	EVスタンド	
有	有	有	無	

○道の駅とよはま……………平成11年(1999年)8月登録

国道11号沿い市南部愛媛県との県境に位置しており、国道11号を往来するドライバーの立ち寄り・休憩所としての利用が高くなっています。夕日が映える道の駅やTVアニメ「結城友奈は勇者である」と金運アップスポット「黄金持ち」の聖地としても有名であり、観光客の来訪も一定数存在しています。しかしながら、県境にあることから、市民の日常利用や市内の各種資源との連携などの点では課題が残ります。

【設備一覧】

駐車場	売店	喫茶・軽食	展望台	イベント広場
65台	約113㎡	約182㎡	有	屋外 (500㎡)
観光案内	無線LAN	公園	EVスタンド	
有	有	有	有	

道の駅を包含するメッシュに集まる人流データ

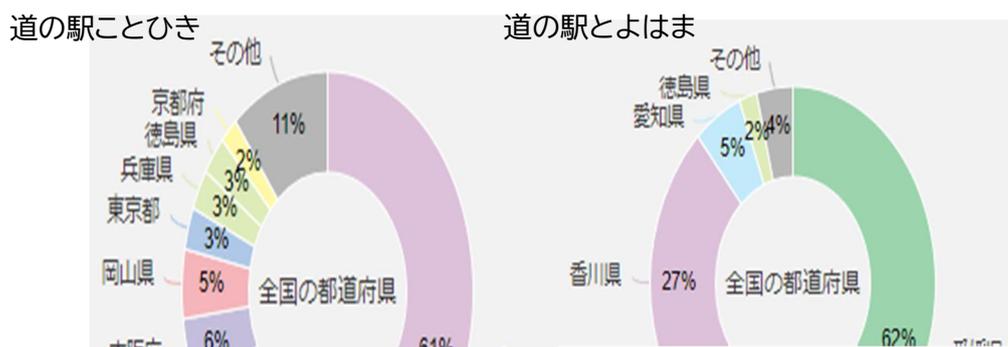


図2-18

出典:全国うごき統計

既存の2つの道の駅については、アクセスの脆弱性や売り場面積が狭いなか、管理運営事業者の経営努力により、長年本市の魅力を伝える拠点として運営しておりますが、本市の政策課題を解決するための拠点として機能するためには、立地条件や大規模な増改築の制限などにより難しい状況にあります。

本市の恵まれた地理的条件や広域的なアクセス性を十分に活かし、本市の有するポテンシャルを最大限に発揮するために、市民が日常的に集い、来訪者に本市や周辺地域の魅力に触れていただけるよう、にぎわいづくりや地方創生の起爆剤となる新たな道の駅の整備が必要です。

既存の2つの道の駅との相乗効果を発揮させる手法については、今後検討する基本計画において、市民のご意見を伺うとともに、既存道の駅の管理運営事業者とも意見交換を行いながら、具体的な位置づけをしていきます。

7 「道の駅」の必要性

このような厳しい状況から脱却し、本市の将来につないでいくためには、本市を「住みたいまち」、「訪れたいまち」、「未来につながるまち」としていくとともに、それらを通じて市民の愛着を高めることはもちろん、来訪者の拡大を通じて本市の良さを感じていただき、多様な関わりを持つ人々（関係人口）を増やし、今後想定される人口減少に伴う悪影響を縮小・緩和していく必要があります、その手法として、本市の有する資源を最大限に活用していくべきであると考えています。

本市を含む西讃地域には、古くから紡いできた歴史、気候や地形によりもたらされる産品、国内外から人を惹きつける名所旧跡など、多くの資源があります。しかしながら、そのポテンシャルが十分に発揮できていない状況にあります。資源を磨き・つなぎ・プロモーションし、その価値をより一層高めることで、まちの魅力を高め、本市に生活したい人（定住者、移住者、UJIターン者）を増やし、加えて、来訪者の増加、消費行動の誘発、地域経済の活性化、就業の魅力化、定住人口の増加といった好循環を生み出していくことが重要であると考えています。

そのために、次の視点から今後の観音寺市を牽引する核となる新「道の駅」を整備し、市民の日常利用はもちろん、広域から人が集い、観音寺に関わる人々の拡大をめざし“にぎわい”を創出します。

■暮らす

“暮らし”の核

平日・休日を通して、市民が安全に安心して集い・遊び・楽しむ場所を提供し、笑顔あふれる暮らしを実現

- 市民が日常の生活における潤いと刺激を感じる日々を楽しみ、「住みたいまち」に暮らしている、住んでいるという満足感を伴う実感を味わう場
- 災害時に利用者や近隣住民が一時的に避難でき、復旧・復興時には物資などの中継地点として機能する暮らしの安全を支え、安心して暮らせる場

■招く

“招き”の核

地域資源をつなぎ、プロモーションすることで、本市に新しい人やモノの流れを招き入れる

- 本市来訪者に対しては、本市、広くは四国全体のゲートウェイとして、「訪れたいまち」をアピールでき、人とモノが集まる場

■育てる

“育て”の核

地域産業・産品の価値を高めるとともに、新たな事業にもチャレンジできる環境を整え、本市の経済成長を牽引する

- 本市の諸産業にかかわる人材の確保・育成や新たな産業や活動を引き起こしていく「未来につながるまち」としての、チャレンジの場

このような3つの役割を果たす空間を、新「道の駅」として一体的に整備し、機能を的確かつ総合的に発揮していけるようにしていくことが重要であります。

新「道の駅」が、所期の効果を発揮することは、本市の様々な施策(子育て・教育施策、商工業・農畜水産業振興施策、観光促進施策等)を束ね、それらの諸活動を象徴化し、広報・PRとして活用し、新「道の駅」施策と各施策との相乗効果を発揮させるという点においても、大きな意味を持つこととなります。

それは、新「道の駅」に、本市が進める「住みたいまち」、「訪れたいまち」、「未来につながるまち」の3つのまちづくりにおいて、にぎわいの核・シンボルとしての位置づけを与えることができ、新「道の駅」が本市を進めていく諸施策と相まって、本市が抱える課題の解決に大きく貢献できると考えています。

新「道の駅」の整備を行うに当たっては、観音寺市の現状と課題(本編第2章)に掲げた本市の課題と市民のニーズなどを踏まえ、次のとおり、数多く抱える課題の解決に着実に資することを念頭に取組むことが重要であります。

■暮らす「住みたいまち」

- (1) 想定される人口減少の影響を回避すべく、定住人口、交流・関係人口の拡大を目指す。
- (2) 水害や南海トラフ地震などの災害に備え、災害に強いまちづくりを目指す。

【市民ニーズ】

子育て環境を整備・向上し、定住の促進を進めることが重要な課題であり、次に掲げるような諸機能を発揮できる空間をイメージし、これらの中で、優先順位をつけながら、日常の生活、週末のレジャー、市民が憩える場としての機能を充実させていくことが求められています。また、近年の気象現象の変化によるゲリラ豪雨・集中豪雨や南海トラフ地震に備え、地震や災害に強く安全に安心して暮らせるまちの構築も求められています。

に着実に資することを念頭に取組むことが重要であります。

(日常空間の改善に資する空間として期待される機能イメージ)

- | | |
|------------|-------------------|
| ① 楽しみの空間 | 小中高生が遊べる空間 |
| ② わらべの空間 | 就学前の子どもが遊べる空間 |
| ③ ふれあいの空間 | イベント・アウトドアができる空間 |
| ④ 健康の空間 | 健康活動ができる空間 |
| ⑤ 癒しの空間 | 動物と人間が幸せに共生できる空間 |
| ⑥ 食の空間 | 地域産品を食することができる空間 |
| ⑦ 食材の空間 | 地域産品の販売流通を展開できる空間 |
| ⑧ 集まりの空間 | 全国の産品が集まる空間 |
| ⑨ 乗り換えの空間 | 長距離バス等の乗り換えができる空間 |
| ⑩ 安全安心の空間 | 被災時でも安全安心な空間 |
| ⑪ 復旧・復興の空間 | 広域的な物資供給拠点となる空間 |

■招く「訪れたいまち」

(3) 交流・関係人口の拡大による地域活性化を図る。

【市民ニーズ】

本市のポテンシャルである農畜水産業、商工業、観光業等への投資・消費の促進等の見地から、次のような機能を念頭に置き、市外から来訪者を招き入れるにあたり、核となる集客施設の整備を進めることが必要であります。

また、併せて、それら集客施設を活用し、効果的な情報発信の拠点となる機能、市内に点在する集客可能な施設等や観音寺市のイベントを繋げるようなネットワークの拠点となる機能なども必要であります。

(念頭に置くべき、集客機能イメージ)

- | | |
|--------------|---------------------|
| ① 発信の空間 | 市内の魅力を発信する空間 |
| ② 滞在の空間 | 宿泊により市内の魅力に魅力を伝える空間 |
| ③ 乗り物の空間 | さまざまな交通手段で来場できる空間 |
| ④ 体験の空間 | モノづくり体験ができる空間 |
| ⑤ つなぎのしかけ | ゲートウェイとして四国をつなぐしかけ |
| ⑥ 周遊のしかけ | 市内の回遊性の向上をはかるしかけ |
| ⑦ アート・文化のしかけ | アート・文化の魅力に触れるしかけ |

■育てる「未来につながるまち」

(4) 本市諸産業の担い手不足が懸念されており、人材の確保・育成や若者を中心に新たな就業の機会や新たな事業にもチャレンジできる環境を提供し、本市の経済成長を牽引する、持続可能な競争力のある地域経済の実現を図る。

【市民ニーズ】

本市の雇用の場でもある、農畜水産業、商工業、観光業等の諸産業の振興等の見地から、次のような機能を念頭に置き、持続可能な雇用の創出が求められています。

また、雇用の場の確保に向けた企業誘致や、就労ニーズにマッチした雇用の場づくりによる「人を育てる場」が必要であります。

(念頭に置くべき、雇用創出機能イメージ)

- | | |
|---------|--------------|
| ① 挑戦の空間 | 人材育成ができる空間 |
| ② 学習の空間 | 諸産業の体験ができる空間 |

以上の、3つの視点から、今後の本市を牽引する核となる新「道の駅」を整備し、市民の日常利用はもちろん、広域から人が集い、観音寺に関わる人々の拡大を目指し“にぎわい”を創出することが喫緊の課題であり、そのような考え方のもと、以下、第3章において、基本理念や基本目標を記しました。

また、第4章以下において、各導入機能のイメージを整理することとしました。

第3章. 基本理念・基本目標の設定

1 新「道の駅」の基本理念

新「道の駅」の基本理念は以下のとおりです。

【新「道の駅」の基本理念(テーマ)】

「暮らす」「招く」「育てる」の真ん中で、新たな交流や体験を生み出す道の駅

~○○○○○○○○~

新「道の駅」を核に、暮らす・招く・育てるの3つの視点から、市民や来訪者を市内外の産業や資源につなぎ、本市のみならず、広くは西讃地域や四国全体のゲートウェイとして、にぎわいを広域に波及させます。本市との交流人口の増加、交流人口よりも強い結びつきを有する関係人口の増加により、観音寺と全国をつなぐ拠点とします。

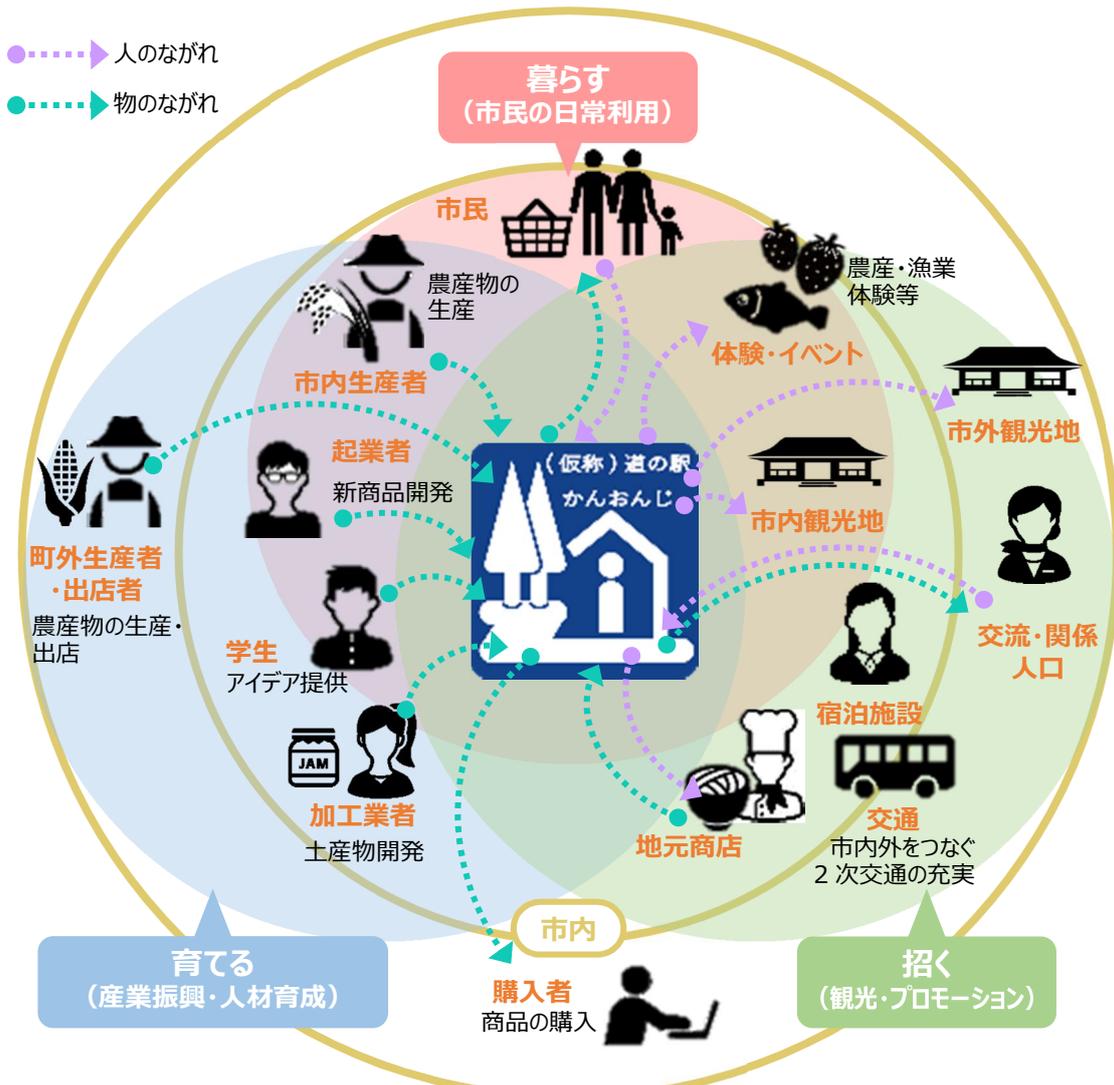


図3-1

【新「道の駅」の基本コンセプト】

「暮らす」

■市民の誰もが安全に安心して日常的に集まれる空間

安全性を確保したうえで、子育て層が日常的に遊びに来たり、市民が日常的に安全に安心して集う場として利用したりすることで暮らしの根幹となる道の駅

「招く」

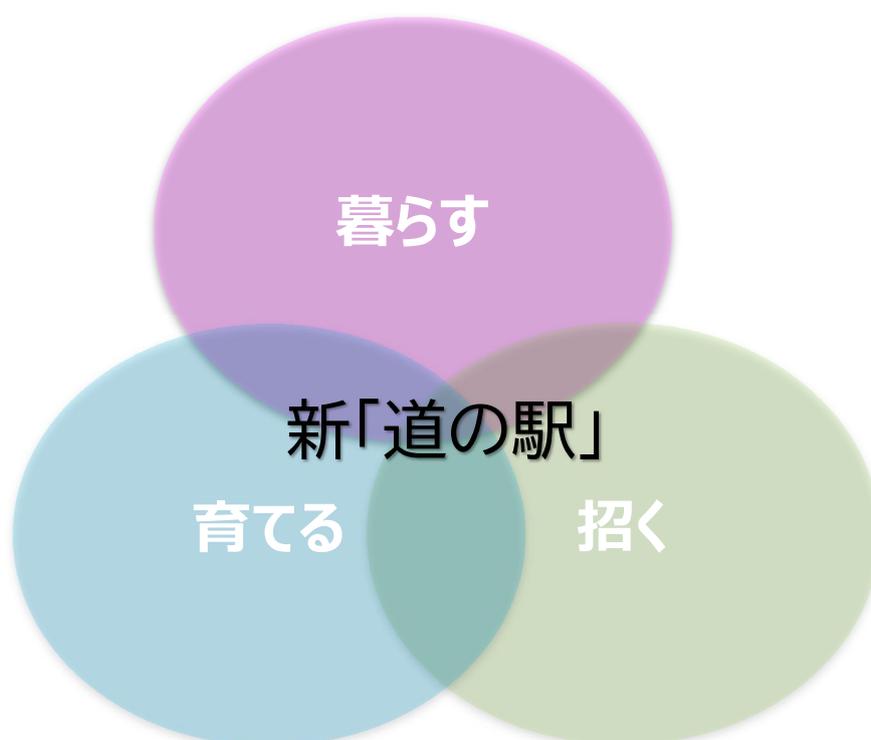
■本市や周辺地域の魅力にあふれる空間

道の駅を通じ五感による様々な体験を提供し、市内観光地や周辺市町村の観光地、市内のイベントなどを繋ぐことで来訪者を招き、回遊させ、様々な楽しみを提供する仕組みを創出する市の核となる道の駅

「育てる」

■本市の新たな魅力を創造する空間

付加価値の高い商品が集まる仕組みや産学官連携による新しい商品を生み出す仕組みにより、商品が充実し、様々な食やお土産を提供している道の駅

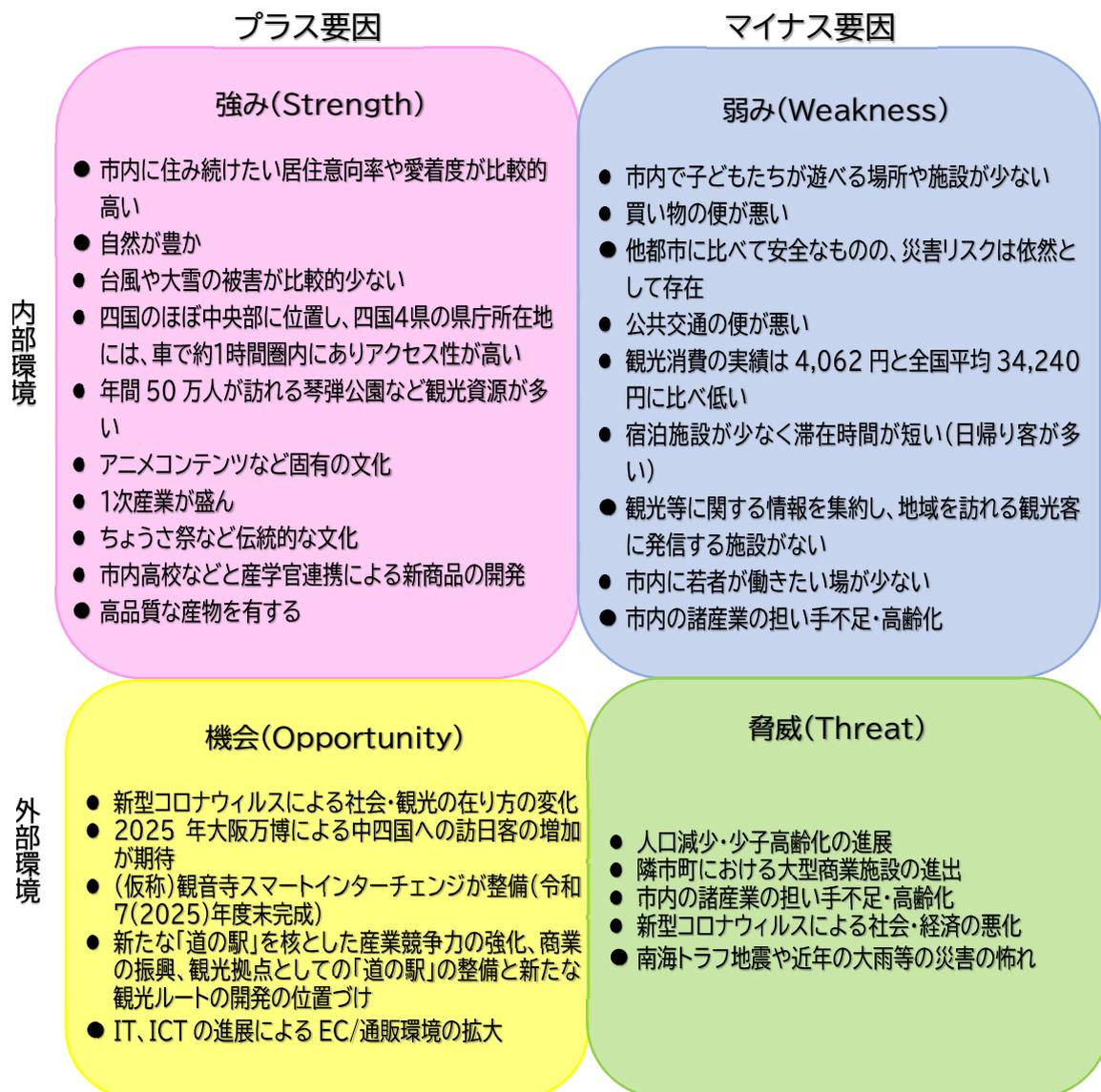


2 4つの基本目標

1) 観音寺市の課題と道の駅の基本目標

現在、観音寺市には2か所の道の駅が整備されていますが、観音寺市や周辺地域に対して大きな求心力のある道の駅にはなっていません。そのため、観音寺市の現状・課題及び上位計画、社会動向等を踏まえ、本道の駅を整備することにより観音寺市の抱える課題を解消し、地域の活性化につなげていくための基本目標を以下のように整理します。

SWOT 分析(観音寺市の課題解決に向けた4つの基本目標)



基本目標

基本目標1 全ての市民が日常的に訪れ、交流できる拠点づくり

～市民のみならず周辺地域の住民が日常的に訪れることができる場となり、全ての世代が交流を体感し、地域のにぎわいを創出する～

基本目標2 地域住民・産業への活性化に貢献する拠点づくり

～地域産品を取り扱う団体など、多種多様な業種が横断的に係わる協同の場とし、地域のにぎわいを創出する～

基本目標3 観光客を呼び込み地域外からの消費・投資を促す拠点づくり

～本市の豊かな地域産品を生かし、多くの観光客を道の駅に呼び込み交流・関係人口の拡大を図ることにより、地域外からの投資・消費を促し、地域のにぎわいを創出する～

基本目標4 災害時の安全・安心な拠点づくり

～多発している豪雨や南海トラフ等巨大地震の発生に備え、市民や訪れた利用者が安心して利用できる場所として安全・安心を提供する～

第4章 導入機能の整理

1 導入機能施設展開イメージ

道の駅の基本3機能も踏まえ、4つの基本目標より導入機能展開イメージを整理します。以下に示すような展開イメージにの効果検証を行い、具体的な導入機能・施設を決定します。

道の駅基本3機能		導入機能イメージ	
休憩機能		駐車場、トイレ、シャワー室、授乳室、ミルク・おむつ販売 など	
情報発信機能		道路交通・観光・ふるさと納税・緊急医療・災害情報発信 など	
地域連携機能		行政サービスコーナー、コミュニティスペース など	
基本目標No.	基本目標	展開No.	基本目標の展開イメージ
1	全ての市民が日常的に訪れ、交流できる拠点づくり	1-1	子育て世帯が親子で時間を過ごせる屋内での子どもの遊び場づくりなど、家族が気軽に集える場を提供する。
		1-2	全ての世代が、健康運動、レクリエーション活動、イベントづくりやイベント参加ができる場所を提供する。
		1-3	ペット連れの利用者が、滞在しやすい環境を提供する。
		1-4	市内の地場店舗などと連携しながら市民の日常の買い物や食事の場を提供する。
2	地域住民・産業への活性化に貢献する拠点づくり	2-1	多種多様な地元の農畜水産物や地域産品などを紹介・販売する場を提供することで、地域経済拠点の形成につなげる。
		2-2	SNSやEC/通販の活用により、地元の地域産品などのブランド力強化による販売の促進を図り、地域経済の活性化を図る。
		2-3	産学官連携による季節の新商品、目玉商品やプライベートブランド商品を多種多様な業種により共同開発し、高付加価値商品を継続的に創出する。
		2-4	市内の産業振興や市民の自己実現にチャレンジできる、人材の育成に資する拠点とする。
3	観光客を呼び込み地域外からの消費・投資を促す拠点づくり	3-1	観光協会や周辺自治体等との連携により、広域的な観光情報等を把握できるコンテンツを集積し、四国の中心に位置する地理的な特長を生かし、四国全域のゲートウェイとしての役割を担う。
		3-2	豊富な地元特産物を素材にした創意工夫の食事や地元有名店の参画を促し、本市ならではの食の魅力を提供・発信する。
		3-3	全国の道の駅、産直市場や有名ショップとの広域的な連携を継続的に図り、全国の有名産品提供やイベント交流などにより、集客の持続性を図る。
		3-4	本市の観光特性を活かした五感を感じる様々な体験を提供する。
		3-5	市内の既存道の駅、観光施設、地元商店街等との連携強化により、イベントや地域通貨などを活用し、市内全域の回遊性を向上する。
		3-6	文化・芸術の魅力を発信し、市内に点在するアート作品との触れ合いや名所旧跡などを巡るツアーなどへの参加を促し、癒しのある時間を提供する。
		3-7	周辺地域観光拠点を周遊するシャトルバス、空港リムジンバスや高速バスの地域交通の拠点機能を整備し、市民や利用者の移動手段を確保する。
		3-8	のりあいバス、観光バス、運送トラック、EV自動車、ロードバイク等さまざまな交通手段や用途で来場できるよう駐車施設や宿泊機能などを提供し、憩いの場とする。
4	災害時の安全・安心な拠点づくり	4-1	防災対応型エネルギー供給システムの活用により、災害時にも通信、各種電源、トイレ機能等を維持し、市民や訪れた利用者が安心して一時避難できる場とする。
		4-2	緊急医療情報や災害情報など防災に関する情報を提供する。
		4-3	被災時は、広域的な物資供給や復旧・復興支援活動の拠点となる施設として活用する。

加えて、様々なソフト施策の展開がありますが、今後策定する基本計画において、市民や事業者との意見交換などにより機能

No.	核	空間	空間概要	空間内容（導入機能イメージ）
1	暮らし	楽しみの空間	小中高生が遊べる空間	公園 など
2	暮らし	わらべの空間	就学前の子どもが遊べる空間	全天候型遊具 など
3	暮らし	ふれあいの空間	イベント、アウトドアができる空間	イベント広場、キャンプ など
4	暮らし	健康の空間	市民の健康活動ができる空間	公園、サークル活動室 など
5	暮らし 招く	癒しの空間	動物と人間が幸せに共生できる空間	ドッグラン など
6	暮らし 招く	食の空間	地域産物を食することができる空間	レストラン、地元店舗出店スペース など
7	暮らし 招く 育てる	食材の空間	地域産品の販売流通を展開できる空間	地域産品出荷者、加工品店、地場店舗販売スペース など
7	暮らし 招く 育てる	食材の空間	地域産品の販売流通を展開できる空間	地域産品出荷者、加工品店、地場店舗販売スペース など
8	招く	発信の空間	市内の魅力を発信する空間	イベント活動、地域産品、PB商品の発信やふるさと納税などのプロモーション など
9	育てる	挑戦の空間	人材育成ができる空間	チャレンジショップ、産学官連携による新商品開発室（連携ラボ） など
9	育てる	挑戦の空間	人材育成ができる空間	チャレンジショップ、産学官連携による新商品開発室（連携ラボ） など
10	育てる	学習の空間	諸産業の体験ができる空間	地域資源発展のため産業振興窓口の開設による諸産業の教育・就業体験工房 など
11	招く	つなぎのしかけ	ゲートウェイとして四国をつなぐしかけ	周辺自治体や施設の観光窓口・コンシェルジュ、広域展開周遊バス、観光バス駐車場 など
6	暮らし 招く	食の空間	地域産物を食することができる空間	レストラン、地元店舗出店スペース、カフェ など
12	暮らし 招く	集まりの空間	全国産品が集まる空間	全国道の駅、全国産直市場、全国有名店舗などの出店スペース など
13	招く 育てる	体験の空間	モノづくり体験ができる空間	諸産業や地場産品のモノづくり体験工房 など
14	招く	周遊のしかけ	市内の回遊性の向上をはかるしかけ	市内イベントや観光拠点への周遊バス、地域通貨や割引などを活用した地場商店をつなぐ
15	招く	アート文化のしかけ	市内の魅力に触れるしかけ	市内に点在するアート作品などを巡る周遊バス など
16	暮らし 招く	のりかえの空間	長距離バス等の乗り換えができる空間	高速バス、リムジンバス など
17	招く	滞在の空間	宿泊により本市の魅力を伝える空間	宿泊の窓口予約、宿泊施設の推進、RVパーク など
18	招く	乗り物の空間	さまざまな交通手段で来場できる空間	レンタサイクル、サイクルステーション、EVステーション、のりあいバス乗り場、観光バス駐車場 など
19	暮らし	安全安心の空間	被災時でも安全安心な空間	次世代エネルギー、非常用電源、耐水性貯水槽、災害用トイレ、ヘリポート、防災用備蓄、防災情報 など
19	暮らし	安全安心の空間	被災時でも安心安全な空間	次世代エネルギー、非常用電源、耐水性貯水槽、災害用トイレ、ヘリポート、防災用備蓄、防災情報 など
20	暮らし	復旧復興の空間	広域的な物資供給拠点となる空間	広域支援部隊の活動拠点 など

2 必要最大敷地面積の予測

過去 10 年間に登録された中国・四国圏域の道の駅の登録年と敷地面積は以下のようにまとめられます。概ね 0.15ha～4ha 程度の敷地において、各地の趣向を凝らした道の駅が登録されており、登録年が新しくなるにつれて、相対的に規模の大きな道の駅の開業も増えてきています。

駐車場、地元特産物販売所や広場などの導入機能について施設規模は未確定ですが、本市の課題解決に資するような機能が十分に発揮できるようにするためには、それなりの敷地面積が想定されます。

近年整備された大型道の駅の敷地面積と同等の広さを想定した場合、本市の新「道の駅」が将来の拡張にも対応できるよう、概ね 4ha の敷地が確保可能な箇所を抽出することとしました。

具体的な整備規模については、今後の基本計画の検討などにおいて、市民のご意見を伺うとともに、民間事業者とも意見交換を行いながら、事業性を慎重に確認しながら敷地面積を決定します。

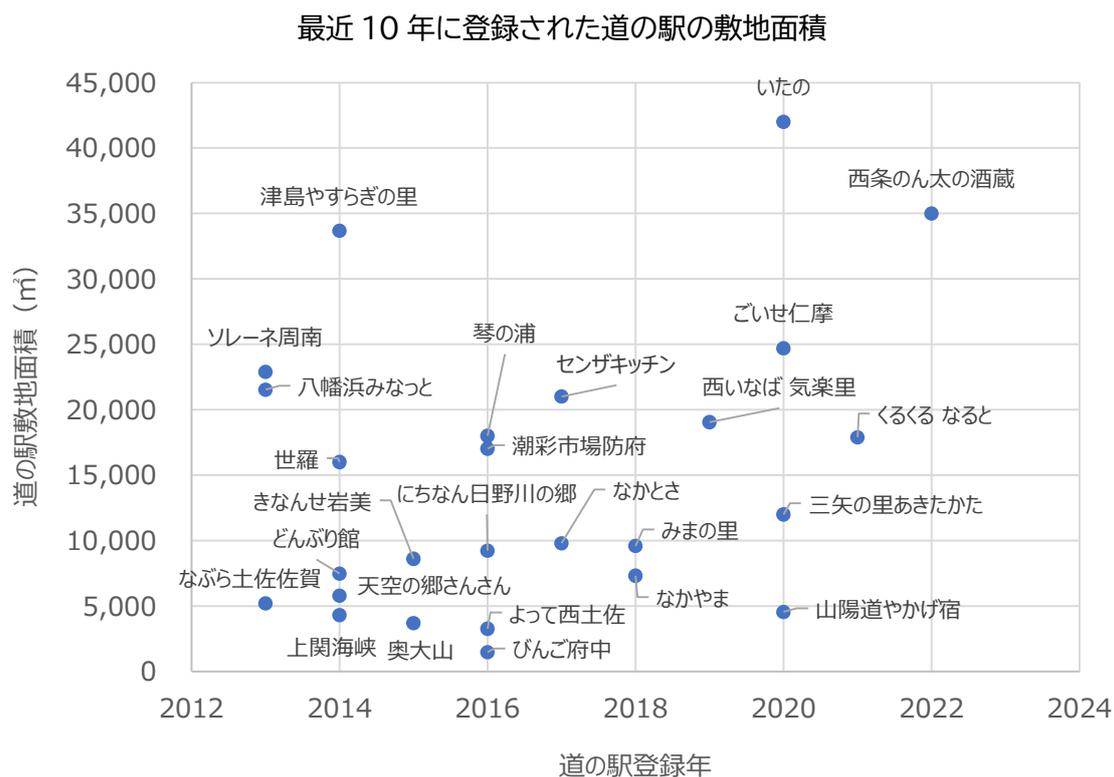


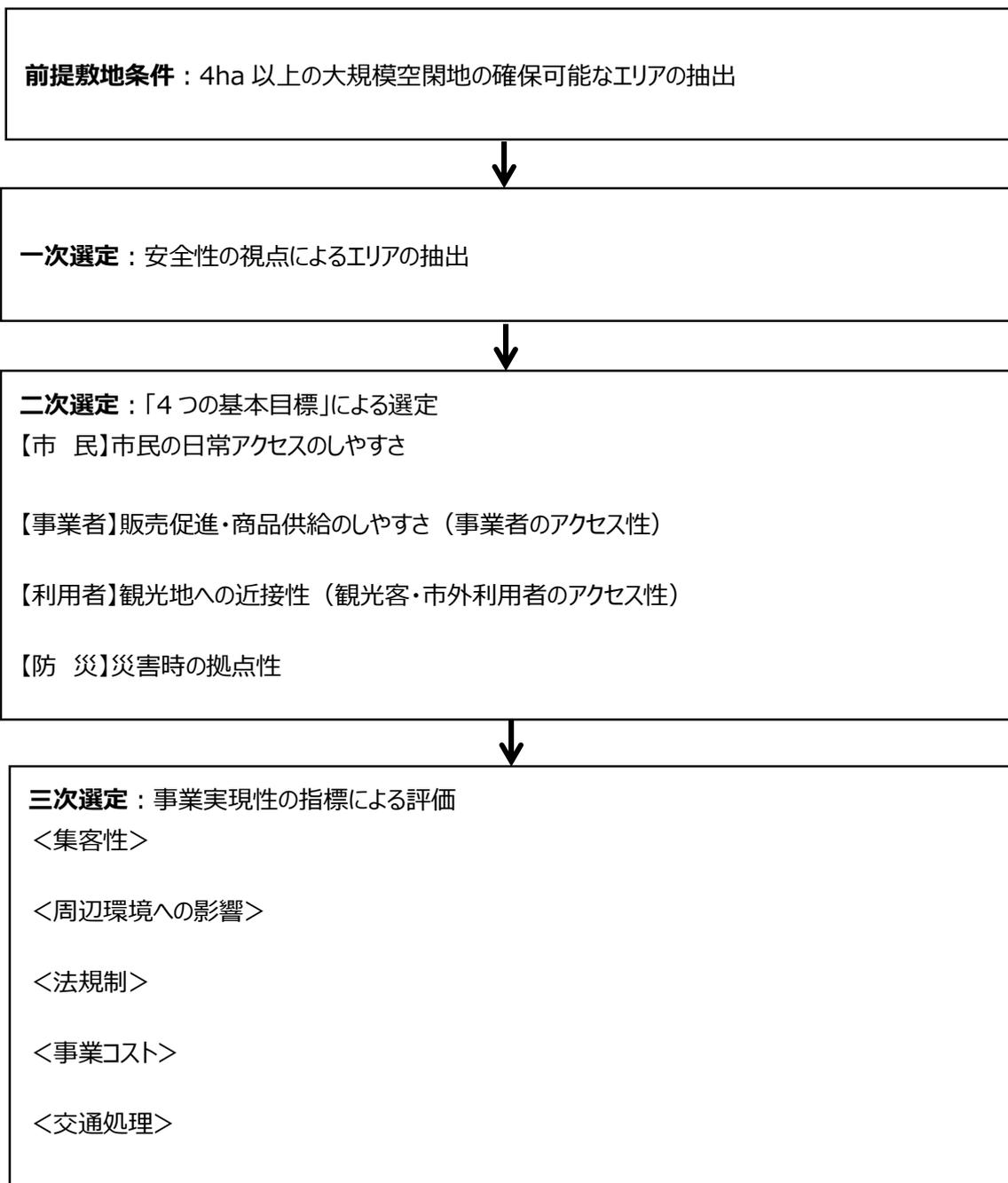
図4-1

※面積は各 HP 調べ及び地図上計測

第5章 建設候補地の選定

建設候補地選定においては、以下のステップにもとづき敷地候補地を抽出します。

候補地選定の流れ



ここに

建設候補地を掲載予定

ここに

建設候補地を掲載予定

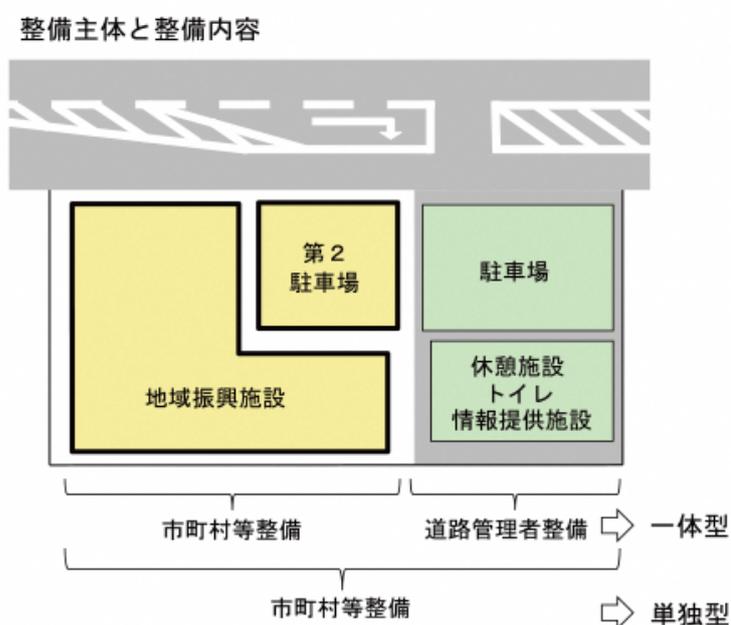
第6章 整備・管理運営の整理

1 「道の駅」の整備方法

「道の駅」の整備方法は、道路管理者と市町村長等で整備する「一体型」と、市町村で全て整備を行う「単独型」の2種類あります。

新「道の駅」整備にあたっては、一体型での整備を想定しながら、関係機関との協議・調整を進めていきます。

「道の駅」の整備方法



出典:国土交通省HP

2 「道の駅」の整備の事業スキーム

道の駅は、休憩に代表されるような公共的な側面が強く収益性が乏しい分野と、観光消費の促進といった一定の収益性が期待できる分野により構成されることとなります。こういった性格のことなる分野について、総合的にサービス水準を高められるよう、包括的に整備・運営していきます。

道の駅の整備・管理運営手法としては、市町村等が施設を整備し、市町村等で管理運営する「公設公営」方式と、市町村等で施設を整備し、民間が管理運営する「公設民営」方式、公共の資金投入も受けながら、民間が施設を整備し、民間が管理運営を行う「PFI」方式があります。

次ページに想定される整備・管理運営手法を整理しますが、事業手法や管理・運営手法を検討するにあたっては、地域事情に応じて、適切な手法を選択していくこととなります。

主な事業手法の比較

分類	公設公営	公設民営		PFI
事業手法	従来方式	指定管理方式	DBO方式※1	BTO※2・BOT※3方式
概要	公共が起債等により資金調達等を行い、公共自らが施設の設計、建設、運営、維持管理について個別に事業者へ委託して実施する従来方式	公共が起債等により資金調達等を行い、公共自らが施設の設計及び建設について、事業者へ発注するとともに、維持管理、運営については包括的に民間事業者へ委託する方式	公共が起債等により資金調達等を行い、民間事業者は施設の整備から、維持管理・運営までを一括事業として実施する方式	民間事業者が金融機関等に資金調達を行ったうえで、施設の整備から、維持管理・運営までを一括事業として実施する方式 PFI法に基づき実施される。
資金調達	公共(起債等)	公共(起債等)	公共(起債等)	民間(金融機関)
施設整備	公共	公共	公共 (維持管理・運営) との一体的事業	民間
施設所有	公共	公共	公共	公共(BTO)/ 民間(BOT)
維持管理 運営	公共	民間 (5年程度の包括委託)	民間	公共(BTO)/ 民間(BOT)
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ● 行政の意向を反映しやすい ● 実績が多く発注手続きも容易 ● 事業全体の効率性や経営的視点から事業をコントロールするメカニズムがなく他の方式と比べて高額となる可能性が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ● 維持管理・運営部分は包括委託のため、民間の創意工夫、効率化によるコスト低減、サービスの向上が期待できる ● 設計、施工を一体的に行うことにより、施設整備費の縮減も可能 	<ul style="list-style-type: none"> ● 設計・建設から維持管理・運営の包括委託のため、民間の創意工夫、効率化によるコスト低減、サービスの向上が期待できる ● 民間事業者による附帯事業(主に、独立採算による自主事業等)の提案も可能 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業規模が小さい場合採用が難しい ● 設計・建設から維持管理・運営の包括委託のため、民間の創意工夫、効率化によるコスト低減、サービスの向上が期待できる ● 民間事業者による附帯事業(独立採算による施設整備や運営等)の提案も可能

※1:Design Build Operate ※2:Build Transfer Operate ※3:Build Operate Transfer

第7章 事業費・財源

道の駅の整備には、国土交通省や農林水産省等の省庁の交付金や補助金を活用できる可能性があります。

今後は、基本計画において、新「道の駅」の施設機能や施設規模など具体的な内容について、関係者との協議を踏まえながら概算事業費を算出し、市の負担が極力抑えられるよう、交付金や補助金を積極的に活用します。

本市の新「道の駅」整備事業において、導入を検討する主な公的補助制度としては、以下の表の通りとなります。

所管及び「道の駅」支援メニュー		補助率	補助対象の可能性
国土交通省	社会資本整備総合交付金 (道路事業)	1/2 等	トイレ・情報発信機能・休憩施設・駐車場・防災倉庫設備・子育て関連施設
内閣府・厚生労働省	地域子育て支援拠点事業	1/3	道の駅における子育て支援拠点の整備
総務省	地域経済循環創造事業交付金	1/2	道の駅整備に伴う設計・工事
農林水産省	農山村振興交付金 (農山漁村発イノベーション対策)	1/2 等	農産物販売施設、農産物処理加工施設等の整備
経済産業省	グリーンエネルギー自動車・インフラ導入促進補助金	1/2 等	電気自動車等への充電設備の工事費
環境省	地域レジリエンス・脱炭素化を同時実現する公共施設への自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業	1/2	防災・減災に資する再生可能エネルギー設備等の導入費

図 導入を検討する主な公的補助事業一覧

参考:各省庁の「道の駅」支援メニュー 令和4年度版

第8章 想定建設スケジュール(案)

本市の抱える課題解決は、いずれも喫緊の課題であり、早期の整備、設置が求められるものではありますが、観音寺市新道の駅市民検討委員会作業部会(仮称)、民間事業者や関係機関等によるご意見も伺いながら、以下の概略事業スケジュール(案)により令和10年度(2028年度)中の開業を目指し検討を進めていきます。

なお、概算事業スケジュール(案)については、整備手法や今後の関係機関等との調整により変更する可能性があります。

概算事業スケジュール(案)

